

科目名	心理学概論Ⅱ			科目コード	6010		
英文名	Outline of Psychology			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(必修科目)		
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	5.学習の過程で発見した課題を探究する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う				
授業概要	心理学の基礎的分野を幅広く、毎回領域を変えながら紹介し、様々な角度から心のはたらきについて議論する。心理学がどのような方法で人間の「心」に迫ろうと試みてきたか、そしてその試みを通じて何が明らかになってきたかについて学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	心理学の様々な研究を通じて、「心理学とは何か」、「心理学が“こころ”と呼んでいるものは何か」を理解すること。また、心理学という学問が、心というやや曖昧な概念を科学的に研究してきた歴史を学び、「科学的に思考する」姿勢を獲得することを目標とする。						
授業内容のレベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士(日本心理学会)の取得資格を得ることができる。従って、本科目は入門的な内容ではあるが、資格に相応しいレベルは保つつもりである。						
授業外学習(予習・復習)	基本的には毎回1つのテーマを扱うため、テーマごとにまとめたノート等を作成することを推奨する。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	指定しない。毎回資料を配布する。						
参考書・その他教材	上村保子・須藤昇 『心理学ガイド』 相川書房 下條信輔 『サブリミナル・マインド』 中公新書						
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。						
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	講義中の私語は慎むこと。許可を得ずに突然撮影することは禁止する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)						

### 授業スケジュール

心理学概論Ⅱ

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、心理学という学問の意味 シラバスを読んでおく。 シラバスをしっかりと読み直しておく。
2回	学習内容 予習 復習	心理学史を学ぶ:心理学の扱う研究領域と心理学の歴史 前回の授業で説明された「心理学とは何か」を説明できるようにしておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
3回	学習内容 予習 復習	感覚・知覚:見ること、聞くことなどと心 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
4回	学習内容 予習 復習	心理物理:感覚を測定する 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で与えられた課題をこなす。
5回	学習内容 予習 復習	学習:経験によって行動(パターン、クセ、好き嫌いなど)が形成される仕組み 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
6回	学習内容 予習 復習	認知:ひとの頭の中で行われた処理を推測する(記憶) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
7回	学習内容 予習 復習	認知:ひとが共通して持つ思考機能とその法則性(推論、意思決定) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で与えられた課題をこなす。
8回	学習内容 予習 復習	社会:ひとが複数いるときに生じること(攻撃・援助行動、追従行動) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
9回	学習内容 予習 復習	感情・動機づけ:好意などが自覚なしに生じる仕組み(情動、帰属) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
10回	学習内容 予習 復習	行動と遺伝・環境の関係について 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
11回	学習内容 予習 復習	人格:性格や知能などの個人差要因を考える 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で与えられた課題をこなす。
12回	学習内容 予習 復習	発達:ひとどのように発達するか 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
13回	学習内容 予習 復習	心理学の新しい展開:生理・神経心理学、認知神経心理学、人工知能 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
14回	学習内容 予習 復習	応用:臨床心理学、産業心理学、教育心理学 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
15回	学習内容 予習 復習	心理学の抱える問題と今後、まとめと復習 これまでまとめたノートをよく見直しておく。 試験の準備をする。

<b>科目名</b>	日本文化論			<b>科目コード</b>	6020		
<b>英文名</b>	Japanese Culture			<b>科目区分</b>	【生活文化福祉コース】 専攻科目(必修科目)		
<b>担当教員</b>	伏見 親子		<b>教員コード</b>	121		<b>単位数</b>	2単位
<b>開講期間</b>	後期	<b>曜日・時限</b>	火曜日・3時限		<b>授業形態</b>	講義	
<b>学位授与方針との対応</b>	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
<b>授業概要</b>	四季のある国で暮らす日本人の生活という視点から、日本文化の基盤にある歳時記を取り上げる。暦法から暦(カレンダー)による暮らしの変化を学び、今に至る日本人の精神性(宗教観、道徳観など)を、季節ごとの行事から俯瞰する。						
<b>授業の狙い・到達目標</b>	日本の四季に応じた行事に込められた日本人の伝統的な精神性を理解し、日本文化と生活を結び付けて考えられるようになってもらいたい。日本の民俗文化から、宗教・美術・工芸・文学などあらゆるものが見えてくることと思う。日本がビジネスとテクノロジーだけの国ではなく、深くアジアと結びついていることも理解してほしい。						
<b>授業内容のレベル・関連科目</b>	民俗学に類する内容である。日本の全体像を把握するための科目として、日本に関する他の科目、「日本事情」、「日本文化入門」、さらには「比較文化論」と共に履修すると効果的である。						
<b>授業外学習(予習・復習)</b>	日本の行事などについての新聞記事や気象予報に関心を向け、ニュースなども見ておくこと プリントを配付するので、授業前に読んでおくこと			<b>授業外学習に必要な時間</b>	各回4時間、 合計60時間		
<b>使用教科書</b>	プリント教材を配付する						
<b>参考書・その他教材</b>	授業で指導する。日本古来の漢字の読みが難しいので、辞書を持ってくること						
<b>課題に対するフィードバック</b>	レポート試験提出後、コメントをつけて返却する。						
<b>成績評価方法</b>	レポート試験70%、授業への積極的な関与を貢献度として30%、で評価する。						
<b>成績評価基準</b>	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
<b>履修上の注意事項や学習上の助言</b>	レポート試験は、必ず遅れず提出すること。遅れて提出した場合は、減点対象となる。授業途中での退席は早退とみなす。やむを得ない場合は、教員の許可を得て学籍番号を告げること						
<b>科目に関連した教員の実務経験</b>	特になし						
<b>担当教員への連絡方法</b>	質問は、原則的に教員の@aikoku-u.orgアドレスへのメール、または教員の指示した連絡方法で受け付ける。件名に科目名、曜日・時限、本文に学籍番号、氏名を必ず記載すること						

## 授業スケジュール

日本文化論

<b>1回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	日本の旧暦とは何か:太陰太陽歴について シラバスの授業概要と授業の目標をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>2回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	旧暦と新暦 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>3回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	二十四節気・七十二候 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>4回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	雑節・五節句 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>5回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	歳時記:睦月、如月 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>6回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	歳時記:弥生、卯月 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>7回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	歳時記:皀月、水無月 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>8回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	歳時記:文月、葉月、 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>9回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	歳時記:長月、神無月 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>10回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	歳時記:霜月、師走 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>11回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	六曜 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>12回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	十干十二支:歳 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>13回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	十干十二支:時刻と方位 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>14回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	十干十二支:陰陽五行説 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
<b>15回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	授業進度の調整 これまでに配付した資料をよく読んでおくこと レポートの課題を仕上げること

<b>科目名</b>	生活科学概論				<b>科目コード</b>	6030	
<b>英文名</b>	Outline of Living Sciences				<b>科目区分</b>	【生活文化福祉コース】 専攻科目(必修科目)	
<b>担当教員</b>	市川 遥夏		<b>教員コード</b>	134	<b>単位数</b>	2単位	
<b>開講期間</b>	後期	<b>曜日・時限</b>	木曜日・1時限		<b>授業形態</b>	講義	
<b>学位授与方針との対応</b>	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探索する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
<b>授業概要</b>	衣・住と生活に加え、香料と生活、森林浴と環境、化粧品科学など現代の生活に密接に関係する課題について解説し、実生活にどう生かすかを説明する。						
<b>授業の狙い・到達目標</b>	生活科学の知識を身に付け、生活全般の諸課題を解決し、地域社会に貢献する力を養成する。また、具体的課題ではアロマセラピーの知識を身につけることを目指す。						
<b>授業内容のレベル・関連科目</b>	日常生活を通じて、科学的な面から理解し、自然災害など身近な生活課題との付き合い方について自ら考えることが大切である。人間文化演習(生活科学分野)を履修予定の学生は、2年次までに単位を修得しておくことが望ましい。						
<b>授業外学習(予習・復習)</b>	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深める。				<b>授業外学習に必要な時間</b>	各回4時間、 合計60時間	
<b>使用教科書</b>	教科書を使用せず、資料を配布。						
<b>参考書・その他教材</b>	公益社団法人日本アロマ環境協会著『アロマセラピー検定公式テキスト1級・2級』世界文化社； 田上八朗ら監修『化粧品科学ガイド 第2版』フレグランスジャーナル社						
<b>課題に対するフィードバック</b>	発表に対してその場でフィードバックを行う。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
<b>成績評価方法</b>	発表・レポート(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
<b>成績評価基準</b>	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
<b>履修上の注意事項や学習上の助言</b>	私語・携帯は厳禁。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。						
<b>科目に関連した教員の実務経験</b>	特になし。						
<b>担当教員への連絡方法</b>	オフィスアワー:木曜日昼休み(研究室:2号館2階4号室) 質問はメールでも受け付ける(ichikawa@aikoku-u.org)						

## 授業スケジュール

生活科学概論

<b>1回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	ガイダンス、授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
<b>2回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	天然香料と合成香料について学ぶ。 香料の種類について調べること。 授業プリントを用いて香料について振り返り、理解を深めること。
<b>3回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	森林浴と環境などについて学ぶ。 フイトンチッドについて調べること。 授業プリントを用いて森林浴について振り返り、理解を深めること。
<b>4回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	皮膚の構造と機能などについて学ぶ。 皮膚の構造について調べること。 授業プリントを用いて化粧品科学について振り返り、理解を深めること。
<b>5回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	紫外線が皮膚に及ぼす影響について学ぶ。 赤外線と紫外線の違いについて調べること。 授業プリントを用いて皮膚と老化について振り返り、理解を深めること。
<b>6回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	スキンケア、紫外線ケア、美白ケア化粧品などについて学ぶ。 コラーゲンとヒアルロン酸の違いについて調べること。 授業プリントを用いて化粧品の役割・機能性について振り返り、理解を深めること。
<b>7回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	アロマセラピーの入門と歴史について学ぶ。 アロマセラピーの歴史について調べること。 授業プリントを用いてアロマセラピーの歴史について振り返り、理解を深めること。
<b>8回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	精油の科学などについて学ぶ。 精油の作用について調べること。 授業プリントを用いて精油の効能・メカニズムについて振り返り、理解を深めること。
<b>9回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	アロマセラピーの利用法などについて学ぶ。 精油の各利用法について調べること。 授業プリントを用いてアロマセラピーの楽しみ方について振り返り、理解を深めること。
<b>10回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	アロマセラピーの安全性について学ぶ。 光毒性について調べること。 授業プリントを用いてアロマセラピーを楽しむための注意点について振り返り、理解を深めること。
<b>11回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	衣服材料の科学、衣服の着后感などについて学ぶ。 衣服材料の分類について調べること。 授業プリントを用いて衣服の科学について振り返り、理解を深めること。
<b>12回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	洗剤の科学について学ぶ。 界面活性剤について調べること。 授業プリントを用いて洗剤について振り返り、理解を深めること。
<b>13回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	住宅材料の科学、すまいの環境、文化などについて学ぶ。 住宅材料の種類について調べること。 授業プリントを用いて住宅の科学について振り返り、理解を深めること。
<b>14回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	住宅と災害対策について学ぶ。 防震と耐震について調べること。 授業プリントを用いて住宅の災害予防について振り返り、理解を深めること。
<b>15回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	まとめ 今までの授業内容について見直し、復習をしていくこと。 授業内容について理解を深めること。

<b>科目名</b>	生活環境学概論			<b>科目コード</b>	6040		
<b>英文名</b>	Outline of Living Environment Science			<b>科目区分</b>	【生活文化福祉コース】 専攻科目(必修科目)		
<b>担当教員</b>	市川 遥夏		<b>教員コード</b>	134		<b>単位数</b>	2単位
<b>開講期間</b>	前期	<b>曜日・時限</b>	木曜日・1時限		<b>授業形態</b>	講義	
<b>学位授与方針との対応</b>	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する		<input checked="" type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
<b>授業概要</b>	生涯にわたって健康で豊かな生活を営むことは人類共通の願いであり、人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上のなるために、食環境を中心とした生活を取り巻く環境と食の安全性についての基礎を学ぶ。						
<b>授業の狙い・到達目標</b>	食と環境の関係や食の安全を考える上で基本となる科学的な考えを理解できるようになる。食生活、水生活さらに廃棄物などにおける身近な生活環境について関心を持ち、理解することを目標とする。						
<b>授業内容のレベル・関連科目</b>	現存する生活環境課題における仕組みについて理解し、生活環境への改善および工夫の仕方について自ら考え、実践することが大切である。生活科学入門が本講義の基礎となる。						
<b>授業外学習(予習・復習)</b>	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組みこと。授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深めること。			<b>授業外学習に必要な時間</b>	各回4時間、 合計60時間		
<b>使用教科書</b>	教科書を使用せず、資料を配布。						
<b>参考書・その他教材</b>	及川紀久雄『新環境と生命』三共出版；一色賢司編『食品衛生学』東京化学同人；大塚譲ら『社会・環境と健康』東京化学同人						
<b>課題に対するフィードバック</b>	小テストは、翌週の授業時に解答・解説する。						
<b>成績評価方法</b>	テスト(50%)、レポート(20%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
<b>成績評価基準</b>	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
<b>履修上の注意事項や学習上の助言</b>	私語・携帯は厳禁。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。						
<b>科目に関連した教員の実務経験</b>	特になし。						
<b>担当教員への連絡方法</b>	オフィスアワー：木曜日昼休み(研究室：2号館2階4号室) 質問はメールでも受け付ける(ichikawa@aikoku-u.org)						

## 授業スケジュール

生活環境学概論

<b>1回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	ガイダンス、授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
<b>2回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	日本における環境問題などについて学ぶ。 環境基本法について調べること。 授業プリントを用いて日本における環境問題について振り返り、理解を深めること。
<b>3回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	人間と環境・食料などについて学ぶ。 エルニーニョ/ラニーニャ現象について調べること。 授業プリントを用いて食料不足原因および食料自給率について振り返り、理解を深めること。
<b>4回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	食品中の汚染物質対策について学ぶ。 「ALARAの原則」について調べること。 授業プリントを用いて食品中の汚染物質対策について振り返り、理解を深めること。
<b>5回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	食中毒対策について学ぶ。 食中毒の危険について調べること。 授業プリントを用いて食中毒対策および予防について振り返り、理解を深めること。
<b>6回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	食品に残留する農薬の対策について学ぶ。 「一日摂取許容量」、「ポジティブリスト制度」について調べること。 授業プリントを用いて食品残留農薬の対策について振り返り、理解を深めること。
<b>7回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	食品添加物の安全性について学ぶ。 マーケットバスケット方式と生産・流通・使用量調査方式について調べること。 授業プリントを用いて食品添加物の機能および安全性について振り返り、理解を深めること。
<b>8回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	遺伝子組換え食品の安全性について学ぶ。 日本で認められている遺伝子組み換え作物について調べること。 授業プリントを用いて遺伝子組換え食品の安全性について振り返り、理解を深めること。
<b>9回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	水環境、浄水処理などについて学ぶ。 原水の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各浄水処理法について振り返り、理解を深めること。
<b>10回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	生活排水対策などについて学ぶ。 活性汚泥の機能について調べること。 授業プリントを用いて下水処理および排水処理について振り返り、理解を深めること。
<b>11回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	大気汚染と健康について学ぶ。 大気汚染物質の種類について調べること。 授業プリントを用いて大気汚染の仕組みおよびその対策について振り返り、理解を深めること。
<b>12回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	室内環境と健康について学ぶ。 シックハウス症候群について調べること。 授業プリントを用いて室内環境と健康との関係について振り返り、理解を深めること。
<b>13回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	廃棄物の対策について学ぶ。 マニフェスト制度について調べること。 授業プリントを用いて廃棄物の種類と処理法について振り返り、理解を深めること。
<b>14回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	3R活動などについて学ぶ。 3Rの具体的な活動について調べること。 授業プリントを用いて「循環型社会」について振り返り、理解を深めること。
<b>15回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	まとめ 今までの授業内容について見直し、復習をしていくこと。 授業内容について理解を深めること。

<b>科目名</b>	現代政治入門			<b>科目コード</b>	6050		
<b>英文名</b>	Intoroduction to Contemporary Politics			<b>科目区分</b>	【生活文化福祉コース】 専攻科目(必修科目)		
<b>担当教員</b>	中村 塑		<b>教員コード</b>	138		<b>単位数</b>	2単位
<b>開講期間</b>	後期	<b>曜日・時限</b>	金曜日・1時限		<b>授業形態</b>	講義	
<b>学位授与方針との対応</b>	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探索する		○ 6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
<b>授業概要</b>	政治の基本から国際政治まで、現代政治に関することを解説する。政治は「遠い世界の話」「難しい」と思われがちなため、「わたしたちと政治」をテーマに授業を進めていく。						
<b>授業の狙い・到達目標</b>	人々が政治に関心を持たないと、社会はよりよくなるやいっても過言ではない。したがって、政治に興味を持ち、自分なりの考えを持つようになるのが目標である。						
<b>授業内容のレベル・関連科目</b>	社会科学に関する科目としては、入門レベルである。したがって高等学校等で学んだ社会科学を履修前に振り返ってほしい。						
<b>授業外学習(予習・復習)</b>	レジュメを配布して授業を進める。したがって事前にレジュメを読み、授業後もレジュメを再度見直すこと。			<b>授業外学習に必要な時間</b>	各回4時間、合計60時間		
<b>使用教科書</b>	なし						
<b>参考書・その他教材</b>	レジュメを配布する。						
<b>課題に対するフィードバック</b>	特になし						
<b>成績評価方法</b>	定期試験(100%)による						
<b>成績評価基準</b>	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
<b>履修上の注意事項や学習上の助言</b>	政治に関する新聞記事やニュースにも興味を持つこと。						
<b>科目に関連した教員の実務経験</b>	特になし						
<b>担当教員への連絡方法</b>	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7 TEL:043-424-4892						

## 授業スケジュール

現代政治入門

<b>1回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	ガイダンス(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
<b>2回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	政治の基本について レジュメをよく読み、「政治のはじまり」「政治の土台」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
<b>3回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	政治を動かす人について I レジュメをよく読み「政治の参加者」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
<b>4回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	政治を動かす人について II レジュメをよく読み「政治家」「官僚」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
<b>5回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	政治の仕組みについて I レジュメをよく読み「国会」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
<b>6回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	政治の仕組みについて II レジュメをよく読み「政党」「政党間関係」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
<b>7回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	政治の仕組みについて III レジュメをよく読み「政治とお金」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
<b>8回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	政治の仕組みについて IV レジュメをよく読み「首相と内閣」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
<b>9回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	政治の仕組みについて V レジュメをよく読み「財政」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
<b>10回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	選挙について I レジュメをよく読み「参政権の歴史」「制度」「一票の格差」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
<b>11回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	選挙について II レジュメをよく読み「勝敗の要因」「選挙運動」「選択の基準」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
<b>12回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	世論について レジュメをよく読み「調査」「支持政党」「ポピュリズム」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
<b>13回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	地方の政治について レジュメをよく読み「歴史と理念」「住民自治」「財源」「課題」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
<b>14回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	国際政治について I レジュメをよく読み「勢力均衡」「国際規範」「外交の歴史」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
<b>15回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	国際政治について II レジュメをよく読み「日本外交」「グローバル化」「課題」について概要を理解すること レジュメを再度読み直して、学んだことや新たに得られた知見を確認すること

科目名	生活福祉論			科目コード	6060		
英文名	Life Welfare			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(必修科目)		
担当教員	太田和 良幸		教員コード	154	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する	<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	健康・医療、子ども・子育て、福祉・介護、年金、労働者保護などの福祉行政領域における行政の役割とその実際について、具体的事例に即して学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	福祉行政の各領域ごとに、それぞれの行政の特徴について理解を深めるとともに、当該領域での課題を明らかにする。						
授業内容のレベル・関連科目	必要とする先修科目はないが、高等学校の社会科などの知識が必要であり、これらが基礎となる。関連する科目としては、「環境法と福祉法Ⅰ」、「社会福祉論」、「社会保障論」などがある。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめること また、毎回授業内容について振り返り、これをレポートにまとめること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジュメなどを配布する。						
参考書・その他教材	講義内で適宜紹介する。						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	国家公務員(内閣府、文部科学省、外務省に勤務) 特に国家公務員としての実務経験に基づく授業内容となる授業スケジュール回(学習内容欄)には★印を付して下線を引いてある。						
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to: ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

## 授業スケジュール

生活福祉論

1回	学習内容 予習 復習	【ガイダンス】授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2回	学習内容 予習 復習	【福祉行政とは】福祉行政とはどのような行政なのかについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
3回	学習内容 予習 復習	【医療保険制度】病気になった時に必要な医療保険制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
4回	学習内容 予習 復習	【障害者福祉制度】障害者を支援する制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
5回	学習内容 予習 復習	【高齢者福祉・介護制度】高齢者の福祉・介護制度、生き甲斐作りなどについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
6回	学習内容 予習 復習	【生活保護制度】生活に困っている人々への支援制度などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
7回	学習内容 予習 復習	【貧困対策制度】貧困対策、子どもの貧困対策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
8回	学習内容 予習 復習	【外国人に対する福祉施策】外国人との共生施策、就労施策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
9回	学習内容 予習 復習	【健康管理施策】受動喫煙対策など健康で衛生的な生活を確保するための施策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
10回	学習内容 予習 復習	【年金制度】国民年金制度、厚生年金制度など年金制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
11回	学習内容 予習 復習	★【子ども・子育て支援制度】保育所の整備、児童手当など子ども・子育て支援の制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
12回	学習内容 予習 復習	★【嫌がらせ対策】いじめ、虐待、ハラスメント、ストーカーなどの対策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
13回	学習内容 予習 復習	★【子どもの健全育成施策】自殺・引きこもり対策、有害環境対策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
14回	学習内容 予習 復習	【労働者保護制度】非正規労働対策、最低賃金対策、雇用機会均等施策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
15回	学習内容 予習 復習	【まとめ】福祉行政の今日的課題について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 全15回の授業を振り返り、福祉行政の今日的諸課題についてとりまとめること

<b>科目名</b>	社会心理学 I			<b>科目コード</b>	6070		
<b>英文名</b>	Social Psychology I			<b>科目区分</b>	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
<b>担当教員</b>	原島 雅之		<b>教員コード</b>	142		<b>単位数</b>	2単位
<b>開講期間</b>	前期	<b>曜日・時限</b>	水曜日・2時限		<b>授業形態</b>	講義	
<b>学位授与方針との対応</b>	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する	<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
<b>授業概要</b>	本教科では社会心理学の基礎について取り上げる。個としての人間がどのようにして社会性を形成するか、またどのようにして自己や社会と関わっていくのかについて、様々な研究例をもとに紹介していく。						
<b>授業の狙い・到達目標</b>	自己や他者の捉え方における社会的性質、他者に対する行動や集団などにまつわる様々な現象から、社会的動物としての人間の理解を目指す。						
<b>授業内容のレベル・関連科目</b>	心理学基礎(心理学概論 I)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。						
<b>授業外学習(予習・復習)</b>	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。			<b>授業外学習に必要な時間</b>	各回4時間、 合計60時間		
<b>使用教科書</b>	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。						
<b>参考書・その他教材</b>	授業の際に適宜紹介あるいは配布を行う。						
<b>課題に対するフィードバック</b>	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。						
<b>成績評価方法</b>	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。						
<b>成績評価基準</b>	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
<b>履修上の注意事項や学習上の助言</b>	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。						
<b>科目に関連した教員の実務経験</b>	特になし						
<b>担当教員への連絡方法</b>	harashima@aikoku-u.org						

### 授業スケジュール

社会心理学 I

<b>1回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	ガイダンスー社会心理学とは シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
<b>2回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	人間の社会性ー社会的性質と対人関係 人間の社会的性質や対人関係の特徴について自らの経験などをもとに考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
<b>3回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	社会的認知①ー印象形成と対人認知 身の回りの様々な人について自分がどのようなイメージを持っているか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
<b>4回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	社会的認知②ー帰属と社会的推論 うまくいったときと失敗したときの出来事を思い出し、その原因について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
<b>5回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	態度ー認知的不協和と態度変容 自分が好き(嫌い)なもの、賛成(反対)だと考えることなどについてその理由を考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
<b>6回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	感情ー感情の要素と機能 人間の感情(怒り、悲しみ、喜びなど)がどのようなことに役立っているか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
<b>7回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	自己①ー自己概念と自己知識 自分自身についてどのようなイメージを持っているかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
<b>8回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	自己②ー自尊心とアイデンティティ 自分の好きどころや嫌いどころなどについてその理由と合わせて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
<b>9回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	対人関係①ーコミュニケーションと対人魅力 どのような理由によって人同士が仲良くなるのか自分の経験などをふまえて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
<b>10回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	対人関係②ー援助行動と攻撃行動 困っている人を助ける理由について自分の経験などをふまえて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
<b>11回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	集団①ーグループダイナミクスと社会的ジレンマ 人が集団をつくることのメリット・デメリットについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
<b>12回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	集団②ーリーダーシップの機能 理想の上司やリーダーにはどのような特徴や能力が求められるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
<b>13回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	集団③ー世論とマスメディア テレビやインターネットが人々の意見にどのような影響を与えるかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
<b>14回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	文化ー集団主義と個人主義 様々な国の文化の違いについて自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
<b>15回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	まとめー社会における心のはたらき ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 社会における心のはたらきとはどのようなものかについて考えること

科目名	社会心理学Ⅱ			科目コード	6080		
英文名	Social Psychology II			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	原島 雅之		教員コード	142	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する	<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	近年、社会心理学においては目標達成に関する研究が大きな注目を集め、数多くの研究知見が得られている。本教科では、そのような知見をもとに、どのように目標を立て実行すべきか、また、他者のモチベーションをどのように引き出したらよいかについて考える。						
授業の狙い・到達目標	目標の設定や追求に関する心理学的研究について学び、自分や他者のモチベーションを高め、適した方略を用いて遂行するやり方を身につけることを目指す。						
授業内容のレベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。						
授業外学習(予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。						
参考書・その他教材	ハルバーソン H. G. 児島修(訳)『やっつけのやる気―意志力を使わずに自分を動かす』 大和書房						
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。						
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org						

## 授業スケジュール

社会心理学Ⅱ

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンスー目標達成の心理学 シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2回	学習内容 予習 復習	目標の設定①ー目標設定理論、行動の同定 自分自身の今の「目標」について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3回	学習内容 予習 復習	目標の設定②ー暗黙の知能観、目標プライミング 人の知能や性格は変えられるかどうかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4回	学習内容 予習 復習	目標追求のタイプ①ー「獲得型」と「防御型」 配布した質問紙に回答し集計を行い自分のタイプがどちらかを把握しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5回	学習内容 予習 復習	目標追求のタイプ②ー「証明型」と「習得型」 配布した質問紙に回答し集計を行い自分のタイプがどちらかを把握しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6回	学習内容 予習 復習	目標達成と満足感ー基本的欲求、内発的動機づけと外発的動機づけ 自分の目標を目指す「理由」は何なのかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7回	学習内容 予習 復習	目標の選択ー目標追求のタイプと適した目標設定 ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 自身に適した目標の立て方を踏まえて自分の今の目標をあらためて捉え直すこと
8回	学習内容 予習 復習	他者への目標設定ー選択の感覚、フレーミングと目標伝染 人からどのようなことを言われたときにやる気が出たか、やる気を失ったかを考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9回	学習内容 予習 復習	「誘惑」への対処ー誘惑と目標葛藤、セルフコントロール 目標追求を妨げる「誘惑」に負けないようにするにはどうしたらよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10回	学習内容 予習 復習	目標追求の計画ー効果的な計画、実行意図の形成 自分の現在の目標を達成するための「計画」について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11回	学習内容 予習 復習	自己制御ー自己制御資源と自我枯渇 誘惑に負けてしまうとときや我慢ができないときはどんなときか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12回	学習内容 予習 復習	楽観主義ー現実的な楽観主義と非現実的な楽観主義 現実的な楽観主義と非現実的な楽観主義の違いについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13回	学習内容 予習 復習	長期的な目標追求ー目標をあきらめるときと粘るとき どのようなときに目標追求をあきらめたほうがよいのか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14回	学習内容 予習 復習	他者へのフィードバックー心理学的に正しい「ほめ方」 どのような「ほめ方」が他者のやる気を高めるかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15回	学習内容 予習 復習	まとめー「目標」に向けてがんばるということ ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 自分の「目標」について今後どのように取り組めばよいかと考えること



科目名	教育心理学			科目コード	6100		
英文名	Educational Psychology			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探索する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	学習者に関わる心理学的知識と、教育者に関わる心理学的知識を広く紹介する。学習者については、学習や記憶の理論・現象、感情や動機づけの影響などについて学ぶ。教育者については、学習者に関する理論・現象を踏まえた教育の工夫や、注意点について学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	実験的手法や日常的な現象を中心に、学習と教育に関する心理学的研究法とその意義についての考えを深めること。 また、「自らが学ぶ姿勢」や「人にものを教える工夫」のヒントを得ることも目標としてほしい。						
授業内容のレベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士(日本心理学会)の取得資格を得ることができる。従って、資格に相応しいレベルは保つつもりである。本科目との隔年開講となっている学習心理学を履修しておくこと、本講義はより理解しやすくなる。						
授業外学習(予習・復習)	配布資料と授業中にとったメモを、改めてノートにまとめることを推奨する。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	指定しない。毎回資料を配布する。						
参考書・その他教材	市川伸一 『学習と教育の心理学 増補版』 岩波書店						
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。						
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	講義中の私語は慎むこと。許可を得ずに突然撮影することは禁止する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)						

## 授業スケジュール

教育心理学

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス:教育心理学の紹介 シラバスを読んでおく。 シラバスをしっかりと読み直しておく。
2回	学習内容 予習 復習	学習をする仕組み① 学習条件づけ 前回の授業で説明された「学習・教育とは何か」を説明できるようにしておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
3回	学習内容 予習 復習	学習をする仕組み② 学習条件づけとルール志向行動、社会的学習 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
4回	学習内容 予習 復習	学習の動機:内発的・外発的動機づけ① 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
5回	学習内容 予習 復習	学習の動機:内発的・外発的動機づけ② 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
6回	学習内容 予習 復習	動機の欠如と介入方法 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
7回	学習内容 予習 復習	自己学習の効果と授業との関係 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
8回	学習内容 予習 復習	学習転移の種類と条件 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で与えられた課題をこなす。
9回	学習内容 予習 復習	教育のアプローチ:学習指導法 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
10回	学習内容 予習 復習	教育のアプローチ:学習環境と授業形態の種類 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
11回	学習内容 予習 復習	教育のアプローチ:行動的アプローチ、認知的アプローチと授業の組み立て 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
12回	学習内容 予習 復習	学習者(児童・生徒)の個人差と評価 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で与えられた課題をこなす。
13回	学習内容 予習 復習	教育者・学習者にありがちな心理学的問題 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
14回	学習内容 予習 復習	教育の現場への心理学の貢献と課題、展望 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
15回	学習内容 予習 復習	まとめと復習 これまでまとめたノートをよく見直しておく。 試験の準備をする。

科目名	性格心理学			科目コード	6110		
英文名	Personality Psychology			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	原島 雅之		教員コード	142		単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する	<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	「性格」ということばは日常の様々な場面で用いられ、多くの人が関心を持っているが、性格がそもそもどういものかを説明することはなかなか難しい。本教科では心理学においてこれまで性格がどのように捉えられ、扱われてきたのか、その理論や方法論などを紹介していく。						
授業の狙い・到達目標	心理学における性格に関する考え方、測定の仕方などを知ることを通して、自分や他者の性格についての理解を深めることを目指す。						
授業内容のレベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。						
授業外学習(予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。						
参考書・その他教材	鈴木公啓(編)『パーソナリティ心理学概論－性格理解への扉－』 ナカニシヤ出版						
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。						
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org						

## 授業スケジュール

性格心理学

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンスー性格心理学とは シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2回	学習内容 予習 復習	性格の理論①ー特性論と類型論 自分や身の回りの人の性格の特徴やタイプについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3回	学習内容 予習 復習	性格の理論②ー状況論と相互作用論 様々な場面における自分の行動の特徴やパターンについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4回	学習内容 予習 復習	性格の測定①ー観察と面接、作業検査 人の性格を測る際に何を「観察」すればよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5回	学習内容 予習 復習	性格の測定②ー質問紙と信頼性・妥当性の問題 人の性格を測る際にどのような「質問」をすればよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6回	学習内容 予習 復習	性格の遺伝ー行動遺伝学と双生児研究 性格は親から遺伝するか、それを調べるにはどうすればよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7回	学習内容 予習 復習	性格の発達①ー青年期までの発達 生まれてから大人になるまで性格はどのように発達していくか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8回	学習内容 予習 復習	性格の発達②ー成人期以降の発達 大人になってから性格は変わるかどうか、またその理由について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9回	学習内容 予習 復習	性格と対人関係①ー学校や友人関係 学校や友人関係は性格にどのような影響を与えるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10回	学習内容 予習 復習	性格と対人関係②ー家族や親密な関係 家族や親密な関係(恋人など)は性格にどのような影響を与えるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11回	学習内容 予習 復習	さまざまな個人差①ー社会的認知における個人差 他者や対人関係、社会などの捉え方にはどのような個人差があるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12回	学習内容 予習 復習	さまざまな個人差②ー感情経験における個人差 感情(喜びや悲しみ、怒りなど)の経験における個人差について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13回	学習内容 予習 復習	性格の病理ー正常と異常、障害と病理 性格の「異常」や「病気」とはどのような状態を表すのかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14回	学習内容 予習 復習	性格の背景ー文化と進化 文化の違いは性格にどのような影響を与えるかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15回	学習内容 予習 復習	まとめー「性格」とは何か ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 人や自分の「性格」とはどのようなものかについて考えること

科目名	産業心理学			科目コード	6140		
英文名	Industrial Psychology			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	原島 雅之		教員コード	142	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する	<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	産業活動に関わる様々な問題に対する心理学的な取り組みを紹介する。その中でも特に、社会的にも最近大きな注目を集めている職場におけるメンタルヘルスの問題を取り上げる。						
授業の狙い・到達目標	将来、特に仕事をしていく中で生じる自身のストレスの状態を把握し、不調が生じた場合は早期にそれに気づき、適切な対処を行うことができるようになる。また、様々な産業活動における心理学の知見を理解し、自らの社会生活に活かすことができる。						
授業内容のレベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。						
授業外学習(予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。						
参考書・その他教材	大阪商工会議所(編)『メンタルヘルス・マネジメント®検定試験公式テキストⅢ種セルフケアコース』中央経済社 山口裕幸・他(著)『経営とワークライフに生かそう! 産業・組織心理学』有斐閣アルマ						
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。						
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org						

## 授業スケジュール

産業心理学

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンスー産業心理学とは シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2回	学習内容 予習 復習	ワーク・モチベーションー仕事の意欲や動機づけ、内容と過程 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3回	学習内容 予習 復習	職場のメンタルヘルスー労働者のストレス、メンタルヘルスケアの意義 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4回	学習内容 予習 復習	ストレスの基礎知識ーストレスとは、産業ストレスと健康障害 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5回	学習内容 予習 復習	メンタルヘルスの基礎知識ー心の健康問題 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6回	学習内容 予習 復習	セルフケアの重要性ー過重労働の影響と自己保健 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7回	学習内容 予習 復習	ストレスへの気づき①ー注意すべきリスク要因、仕事以外でのストレス 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8回	学習内容 予習 復習	ストレスへの気づき②ーストレスの影響、ストレスチェック 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9回	学習内容 予習 復習	ストレスへの対応①ーストレスの軽減方法、ストレス要因への対処 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10回	学習内容 予習 復習	ストレスへの対応②ー自発的な相談と資源の活用 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11回	学習内容 予習 復習	組織の心理学ー組織と人の関わり、リーダーシップと人事評価 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12回	学習内容 予習 復習	消費者の心理学①ー消費者行動と心理学 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13回	学習内容 予習 復習	消費者の心理学②ー広告と心理学 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14回	学習内容 予習 復習	インターネットの心理学ーコンピュータ・ネットワークと心理学 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15回	学習内容 予習 復習	まとめー産業・組織と心理学の関わり ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 今後自分が仕事をしていく上で必要だと考える心理学的知識についてまとめておくこと

<b>科目名</b>	認知心理学			<b>科目コード</b>	6150		
<b>英文名</b>	Cognitive Psychology			<b>科目区分</b>	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
<b>担当教員</b>	佐久間 直人		<b>教員コード</b>	148		<b>単位数</b>	2単位
<b>開講期間</b>	前期	<b>曜日・時限</b>	火曜日・1時限		<b>授業形態</b>	講義	
<b>学位授与方針との対応</b>	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探索する		○ 6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
<b>授業概要</b>	認知心理学とは、心の仕組み・機構を論理的に解明する学問であり、比較的新しい領域でありながら、今やほとんど全ての心理学に影響を与えている。本講義では、認知心理学の代表的なトピックとされるいくつかの題材を学ぶとともに、それらを通して、手法としての認知心理学を学ぶ。						
<b>授業の狙い・到達目標</b>	本講義で紹介する様々な研究を通して、「情報処理機構としての人の心」を理解する。また、実験データから行動の心的過程を推測しモデル化する手法と、その意義を捉えることを目標とする。						
<b>授業内容のレベル・関連科目</b>	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士(日本心理学会)の取得資格を得ることができる。従って、資格に相応しいレベルは保つつもりである。関連科目は心理学概論Ⅱ、色彩心理学、学習心理学など。						
<b>授業外学習(予習・復習)</b>	配布資料と授業中にとったメモを、改めてノートにまとめることを推奨する。			<b>授業外学習に必要な時間</b>	各回4時間、 合計60時間		
<b>使用教科書</b>	指定しない。毎回資料を配布する。						
<b>参考書・その他教材</b>	御領謙・菊地正、他『最新 認知心理学への招待―心の働きとくみを探る』サイエンス社 日本認知心理学会(編)『認知心理学ハンドブック』有斐閣						
<b>課題に対するフィードバック</b>	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。						
<b>成績評価方法</b>	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。						
<b>成績評価基準</b>	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。						
<b>履修上の注意事項や学習上の助言</b>	講義中の私語は慎むこと。許可を得ずに突然撮影することは禁止する。						
<b>科目に関連した教員の実務経験</b>	特になし。						
<b>担当教員への連絡方法</b>	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)						

### 授業スケジュール

認知心理学

<b>1回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	ガイダンス、認知心理学の紹介 シラバスを読んでおく。 シラバスをしっかりと読み直しておく。
<b>2回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	認知心理学とは何か:認知心理学の研究法と理論 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
<b>3回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	知覚認知:感覚・知覚と認知 前回の授業で説明された「認知心理学とは何か」を説明できるようにしておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
<b>4回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	知覚認知:特徴統合、複雑な構造を持つ刺激の知覚 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
<b>5回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	注意:注意の概念、種類とモデル 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
<b>6回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	注意:注意の効果と諸現象 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で紹介された現象の日常的な例を探しておく。
<b>7回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	記憶:記憶の定義と分類 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
<b>8回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	記憶:記憶に関する心理学的諸現象 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で紹介された現象の日常的な例を探しておく。
<b>9回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	記憶:日常場面での記憶・知識と記憶法略 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
<b>10回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	思考:問題解決と推論 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
<b>11回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	思考:効用理論と意思決定論 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で紹介された現象の日常的な例を探しておく。
<b>12回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	言語:単語の認知に関する心理学的諸現象 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
<b>13回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	言語:文章理解、心理学と言語学 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
<b>14回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	認知心理学的モデル:認知心理学が明らかにする心の機能 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
<b>15回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	認知心理学とは何か:まとめと復習 これまでまとめたノートをよく見直しておく。 試験の準備をする。

科目名	色彩心理学			科目コード	6160		
英文名	Color Psychology			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	色は、日常で目にする物体の最も基本的な属性の一つであり、極めて身近なものである。しかし、実際には「色とは何か」、「色が見えるとはどういうことか」は一般的には知られていない。本講義では、色の仕組み、色にまつわる心理学的な諸現象の紹介を通して、色と人間の関わりを学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	色そのものの性質や色が見える仕組みなどについて理解することを目標とする。色彩学、色の知覚心理学、色彩デザインの基礎知識を習得することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士(日本心理学会)の取得資格を得ることができる。従って、資格に相応しいレベルは保つつもりである。また、色彩検定UC級と3級(および2級の一部)の資格取得に役立つ内容が扱われる。						
授業外学習(予習・復習)	授業の前と後に、教科書の該当箇所を読んでおく。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	海保博之・日比野治雄・小山慎一(編)『朝倉実践心理学講座3 デザインと色彩の心理学』朝倉書店						
参考書・その他教材	公益社団法人 色彩検定協会『色彩検定 公式テキスト 3級編(2020年改訂版)』						
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。						
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	講義中の私語は慎むこと。許可を得ずに突然撮影することは禁止する。カラーの資料をオンラインで提供する予定なので活用してほしい。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)						

## 授業スケジュール

色彩心理学

1回	学習内容 予習 復習	色彩心理学とは:ガイダンス、色彩心理学の紹介 シラバスをしっかりと読んでおく。 色彩検定についてインターネット等で簡単に調べておく。
2回	学習内容 予習 復習	色と人間:色と学問(心理学・光学・人間工学)の関わり
3回	学習内容 予習 復習	色とは何か:色の正体と色が見える仕組み① 分光分布、分光反射率、錐体過程 教科書の第3章の前半部分について、図を中心に目を通しておく。 教科書の第3章の前半部分の該当箇所を読み直す。
4回	学習内容 予習 復習	色とは何か:色の正体と色が見える仕組み② 錐体拮抗課程、混色 教科書の第3章の前半部分について、図を中心に目を通しておく。 教科書の第3章の前半部分の該当箇所を読み直す。
5回	学習内容 予習 復習	色の表し方:色を定量的に表す方法(表色系の成り立ち) 教科書の第3章の後半部分について、図を中心に目を通しておく。 教科書の第3章の後半部分を読み直す。
6回	学習内容 予習 復習	色の見え方:物理的に定義される色と、人間個人に「見えた色」の違い 色とは何か、表色系とは何かについて、説明できるようにしておく。 教科書の第5章を読み直す。色の錯視の例を日常で探してみる。
7回	学習内容 予習 復習	ここまでのまとめ:眼球に光が入ってから色が見えるまで これまでの授業の要点を自分なりにまとめておく。 教科書の第3章を読み、内容が概ね理解できることを確認しておく。
8回	学習内容 予習 復習	色名と色の分類:日常的な色の分類の成立と、色名の持つ効果 色の名前を思い浮かんだ順にできるだけ書いてみる。 自分が書き上げた色名やその順序と、授業内容の関係を考えてみる。
9回	学習内容 予習 復習	色の心理的效果:網膜の錐体分布から考える「見えている景色」の不思議 色が見える仕組みについて見直しておく。 教科書の第6章について、図を中心に目を通しておく。
10回	学習内容 予習 復習	色の心理的效果:色が他の属性に与える影響 教科書の第6章に目を通しておく。 教科書の第6章を読み直す。
11回	学習内容 予習 復習	色とデザイン:デザインや芸術における色の配置 教科書の第9章、第12章に目を通しておく。 教科書の第9章、第12章を読み直す。
12回	学習内容 予習 復習	色覚の多様性:等色実験と色覚検査、錐体の種類による色覚のタイプ 色が見える仕組みについて見直しておく。 錐体特性と色覚のタイプについてまとめる。
13回	学習内容 予習 復習	色覚の多様性:遺伝的多様性・疾病等による多様性と色のユニバーサルデザイン 色とは何かと、色覚のタイプについて説明できるようにしておく。 身近なもので「UCのもの」または「UCにすべきもの」を探す。
14回	学習内容 予習 復習	色とイメージ:感情やリラクゼーションと色のかかわり、「世間という色彩心理学」の問題点 インターネットで「色彩心理学」を検索し、おおまかな印象をまとめる。 心理学と疑似科学をどのように区別すればよいか考える。
15回	学習内容 予習 復習	まとめと復習:これまでの授業のポイントを振り返る これまでの要点・重要語をよく見直しておく。 試験の準備をする。

科目名	心理学研究法 I			科目コード	6170		
英文名	Psychological Research Methods I			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	心理学という学問の、実践的な研究方法を紹介する。代表的な研究手法、データの分析手法を紹介した「心理学研究法」というテキストに沿って授業を進めていく。心理学研究法 I ではテキストの1章から7章にある、データの取得方法までをとりあげる。						
授業の狙い・到達目標	人間の行動とその心的過程を研究する方法(主にデータの取り方)を習得することを目標とする。						
授業内容のレベル・関連科目	心理学で卒業研究をする予定の学生は4年生になる前までに履修することが望ましい。また、この授業で学ぶ内容は、心理学実験実習 I、II で実践することができる。逆に、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすめてできない専門的な内容である。						
授業外学習(予習・復習)	授業の前と後に、教科書の該当箇所を読んでおく。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	大山正・岩脇三良・宮笠壽夫『心理学研究法 データ収集・分析から論文作成まで』サイエンス社						
参考書・その他教材	特になし。						
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。						
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	研究方法に関する専門的な内容を扱うため、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすめてしない。時間割を埋めるために登録するなどしないように注意願いたい。私語は厳禁であるが、発言は歓迎する。講義中でも積極的に質問してほしい。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)						

### 授業スケジュール

心理学研究法 I

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス:心理学とは何か、なぜ研究法が必要か シラバスをしっかりと読んでおく。
2回	学習内容 予習 復習	心理学研究法の特徴:心理学の研究対象と歴史 教科書の第1章に目を通しておく。 教科書の第1章を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
3回 ・ 4回	学習内容 ・ 予習 ・ 復習	観察法・面接法・実験法:自然観察、条件を統制した観察と面接による観察のしかた 教科書の第2章に目を通しておく。 教科書の第2章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
5回 ・ 6回	学習内容 ・ 予習 ・ 復習	質問紙法:質問紙による調査データの収集法 教科書の第3章に目を通しておく。 教科書の第3章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
7回	学習内容 予習 復習	SD法:イメージの測定、意味空間を調べるSD法の行い方 教科書の第4章に目を通しておく。 教科書の第4章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
8回 ・ 9回	学習内容 ・ 予習 ・ 復習	反応時間測定法:反応時間の測定方法とその意義 教科書の第5章に目を通しておく。 教科書の第5章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
10回 ・ 11回 ・ 12回	学習内容 ・ 予習 ・ 復習	心理検査法:質問紙法、作業検査法、投影法による個人データの測定方法 教科書の第6章に目を通しておく。 教科書の第6章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
13回 ・ 14回	学習内容 ・ 予習 ・ 復習	心理物理学的測定法:刺激(物理量)と反応(心理量)の対応を求め、感覚を測る方法 教科書の第7章に目を通しておく。 教科書の第7章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
15回	学習内容 予習 復習	まとめと復習 これまでの要点と重要語をまとめておく。 試験の準備やレポート執筆をする。

<b>科目名</b>	心理学実験実習 I			<b>科目コード</b>	6190		
<b>英文名</b>	Psychological Experiments I			<b>科目区分</b>	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
<b>担当教員</b>	原島 雅之/佐久間 直人		<b>教員コード</b>	142/148		<b>単位数</b>	2単位
<b>開講期間</b>	通年(前期)	<b>曜日・時限</b>	金曜日1・2時限		<b>授業形態</b>	演習	
<b>学位授与方針との対応</b>	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input checked="" type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する		<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
<b>授業概要</b>	心理学の基礎的な実験としてよく知られているものをいくつか取り上げて実施する。実験・観察・調査等の方法について、受講者は実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)として参加体験する。毎回の実験についてレポート提出が求められる。						
<b>授業の狙い・到達目標</b>	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学の実験や調査を単に経験するだけでなく、得られたデータを分析および考察し、レポートにまとめることを通して、心のはたらきを科学的に説明するための知識や技能を身につけることを目指す。						
<b>授業内容のレベル・関連科目</b>	実験ごとに毎回のレポート提出があるなど心理学系科目のなかではやや難しめレベルとなっている。また心理学研究法は受講しておくこともしくは合わせての受講が望ましい。						
<b>授業外学習(予習・復習)</b>	各回で行う実験については事前にテキストで確認しておくこと。実験で得られたデータの集計や分析、レポート執筆については授業内の指示に従って各自行うこと。			<b>授業外学習に必要な時間</b>	各回4時間、 合計120時間		
<b>使用教科書</b>	大和田智文・鈴木公啓(編)『心理学基礎実験を学ぶーデータ収集からレポート執筆までー』北樹出版						
<b>参考書・その他教材</b>	日本心理学会(編)『執筆・投稿の手引き(2015年改訂版)』 都築学(著)『心理学論文の書き方ーおいしい論文のレシピ』有斐閣アルマ						
<b>課題に対するフィードバック</b>	提出された各回のレポートについては添削した上、返却を行い、授業内においても講評等を行う。						
<b>成績評価方法</b>	実習の参加態度(20%)、実験ごとのレポート(80%)で総合的に評価する。						
<b>成績評価基準</b>	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
<b>履修上の注意事項や学習上の助言</b>	実験ごとのレポート提出など負担は大きい、「認定心理士」資格取得や心理学関連の卒業研究には欠かせない授業である。実習を行う都合上、遅刻および欠席は特に厳禁とする。						
<b>科目に関連した教員の実務経験</b>	特になし						
<b>担当教員への連絡方法</b>	原島の連絡先: harasima@aikoku-u.org 佐久間の連絡先: sakuma@aikoku-u.org						

## 授業スケジュール

心理学実験実習 I

<b>1回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	ガイダンスー実験実習を行うための概要説明・注意事項 テキストの第1章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第1章を見直すこと
<b>2回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	レポートの書き方ー心理学実験レポートの書き方の説明 テキストの第18章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第18章を見直すこと
<b>3回</b> <b>・</b> <b>4回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験1:ミュラー・リヤー錯視①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第2章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第2章を見直すこと
<b>5回</b> <b>・</b> <b>6回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験1:ミュラー・リヤー錯視②ー実験の実施 テキストの第2章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
<b>7回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験1:ミュラー・リヤー錯視③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第2章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
<b>8回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験1:ミュラー・リヤー錯視④ーレポート作成 テキストの第2章を読んでおくこと レポートを作成すること
<b>9回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験1のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
<b>10回</b> <b>・</b> <b>11回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験2:鏡映描写①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第5章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第5章を見直すこと
<b>12回</b> <b>・</b> <b>13回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験2:鏡映描写②ー実験の実施 テキストの第5章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
<b>14回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験2:鏡映描写③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第5章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
<b>15回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験2:鏡映描写④ーレポート作成 テキストの第5章を読んでおくこと レポートを作成すること

授業スケジュール

心理学実験実習 I

16 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験2のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
17 ・ 18 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験3: 系列位置効果①－実験の背景解説および方法の説明 テキストの第7章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
19 ・ 20 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験3: 系列位置効果②－実験の実施 テキストの第7章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
21 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験3: 系列位置効果③－結果の整理とレポート準備 テキストの第7章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
22 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験3: 系列位置効果④－レポート作成 テキストの第7章を読んでおくこと レポートを作成すること
23 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験3のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
24 ・ 25 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験4: 潜在態度①－実験の背景解説および方法の説明 テキストの第16章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第16章を見直すこと
26 ・ 27 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験4: 潜在態度②－実験の実施 テキストの第16章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
28 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験4: 潜在態度③－結果の整理とレポート準備 テキストの第16章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
29 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験4: 潜在態度④－レポート作成 テキストの第16章を読んでおくこと レポートを作成すること
30 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験4のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと



<b>科目名</b>	心理学実験実習Ⅱ			<b>科目コード</b>	6200		
<b>英文名</b>	Psychological Experiments II			<b>科目区分</b>	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
<b>担当教員</b>	原島 雅之/佐久間 直人		<b>教員コード</b>	142/148		<b>単位数</b>	2単位
<b>開講期間</b>	通年(後期)	<b>曜日・時限</b>	金曜日1・2時限		<b>授業形態</b>	演習	
<b>学位授与方針との対応</b>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○ 3.論理的・批判的なものの見方を養う		○		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
<b>授業概要</b>	心理学実験実習Ⅰとは異なる実験を取り上げて実施する。実験・観察・調査等の方法について、受講者は実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)として参加体験する。毎回の実験についてレポート提出が求められる。						
<b>授業の狙い・到達目標</b>	授業目的は心理学実験実習Ⅰと同様、基礎的な心理学実験の実習を通して、心理学的な測定方法と評価・分析方法を修得することを目指す。						
<b>授業内容のレベル・関連科目</b>	実験ごとにレポート提出があるなど心理学系科目のなかではやや難しめレベルとなっている。また心理学研究法は受講しておくこともしくは合わせての受講が望ましい。						
<b>授業外学習(予習・復習)</b>	各回で行う実験については事前にテキストで確認しておくこと。実験で得られたデータの集計や分析、レポート執筆については授業内の指示に従って各自行うこと。			<b>授業外学習に必要な時間</b>	各回4時間、合計120時間		
<b>使用教科書</b>	大和田智文・鈴木公啓(編)『心理学基礎実験を学ぶーデータ収集からレポート執筆までー』北樹出版						
<b>参考書・その他教材</b>	日本心理学会(編)『執筆・投稿の手引き(2015年改訂版)』都築学(著)『心理学論文の書き方ーおいしい論文のレシピ』有斐閣アルマ						
<b>課題に対するフィードバック</b>	提出された各回のレポートについては添削した上、返却を行い、授業内においても講評等を行う。						
<b>成績評価方法</b>	実習の参加態度(20%)、実験ごとのレポート(80%)で総合的に評価する。						
<b>成績評価基準</b>	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
<b>履修上の注意事項や学習上の助言</b>	実験ごとのレポート提出など負担は大きい、「認定心理士」資格取得や心理学関連の卒業研究には欠かせない授業である。実習を行う都合上、遅刻および欠席は特に厳禁とする。						
<b>科目に関連した教員の実務経験</b>	特になし						
<b>担当教員への連絡方法</b>	原島の連絡先: harasima@aikoku-u.org 佐久間の連絡先: sakuma@aikoku-u.org						

### 授業スケジュール

心理学実験実習Ⅱ

<b>1回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	ガイダンスー実験実習を行うための概要説明・注意事項 テキストの第1章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第1章を見直すこと
<b>2回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験データの整理法 テキストの第18章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第18章を見直すこと
<b>3回</b> <b>・</b> <b>4回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験1: ストループ①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第4章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第4章を見直すこと
<b>5回</b> <b>・</b> <b>6回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験1: ストループ効果②ー実験の実施 テキストの第4章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
<b>7回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験1: ストループ効果③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第4章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
<b>8回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験1: ストループ効果④ーレポート作成 テキストの第4章を読んでおくこと レポートを作成すること
<b>9回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験1のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
<b>10回</b> <b>・</b> <b>11回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験2: 透明性錯覚①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第12章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第12章を見直すこと
<b>12回</b> <b>・</b> <b>13回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験2: 透明性錯覚②ー実験の実施 テキストの第12章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
<b>14回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験2: 透明性錯覚③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第12章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
<b>15回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験2: 透明性錯覚④ーレポート作成 テキストの第12章を読んでおくこと レポートを作成すること

授業スケジュール

心理学実験実習Ⅱ

16 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験2のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
17 ・ 18 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験3:4枚カード問題①－実験の背景解説および方法の説明 テキストの第7章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
19 ・ 20 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験3:4枚カード問題②－実験の実施 テキストの第7章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
21 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験3:4枚カード問題③－結果の整理とレポート準備 テキストの第7章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
22 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験3:4枚カード問題④－レポート作成 テキストの第7章を読んでおくこと レポートを作成すること
23 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験3のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
24 ・ 25 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験4:社会的促進と抑制①－実験の背景解説および方法の説明 テキストの第14章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第14章を見直すこと
26 ・ 27 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験4:社会的促進と抑制②－実験の実施 テキストの第14章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
28 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験4:社会的促進と抑制③－結果の整理とレポート準備 テキストの第14章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
29 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験4:社会的促進と抑制④－レポート作成 テキストの第14章を読んでおくこと レポートを作成すること
30 回	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	実験4のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと

科目名	歴史と現代 I			科目コード	6210	
英文名	History and Contemporary Society I			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○ 6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	政治史・外交史の分野で日本の近現代を学ぶ史学概論に対して、本講義では、社会経済史として、日本の近現代を学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	講義の前半は戦前、後半は戦後である。前半では、Pre-modernとしての江戸時代から講義を始め、明治時代を中心に日本の近代化を概説する。後半の戦後社会では、現代社会の様々な問題の起源を探る形で、テーマ別に戦後史を概説する。					
授業内容のレベル・関連科目	専攻科目であり、若干、発展的な内容を含む。史学概論や日本文化入門の講義は、基礎学習の意味をもつ。また、歴史と現代Ⅱをあわせて受講することで、理解が深まるものと考ええる。					
授業外学習(予習・復習)	日本文化入門(後半部分)、史学概論、歴史と現代Ⅱが、本講義の関連科目である。これらの講義を併せて履修する学生が、その講義レジュメを参照することが、有益な予復習となる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点30%、期末テスト70%					
成績評価基準	授業の狙いあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ？」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし。					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスマナー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

## 授業スケジュール

歴史と現代 I

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	江戸時代①、近代的発展の基礎が築かれた時代として、江戸時代を捉え直す。 Pre-Modernとしての江戸時代とはどういうことか、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	江戸時代②、開国に至る流れを概説し、明治期の国際化を学ぶ基礎を概説する。 開国から幕末の騒乱の時期について、社会・経済の視点から、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	明治時代①、開国と国際化・近代化を概説し、明治維新の社会経済的意義を理解する。 開国後の混乱、社会の変容について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	明治時代②、殖産興業をキーワードに、明治前期の社会経済史を概説する。 富岡製糸場など、殖産興業の時代を代表する工場等について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	明治時代③、明治時代を中心に、戦前の産業・交通の発展を概説する。 第4～5回のレジュメを見返すとともに、参考資料から発展的復習をしておくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。第2回～第6回までの講義をおさらいする。 第2回～第6回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	戦後史①、戦後復興史の概説。第9回以降の講義の基礎となる概説を行う。 戦後史の基本的な流れを、自分なりに学習してみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	戦後史②、過疎化・過密化をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 第8回レジュメおよび、 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	戦後史③、都市化と公害をテーマに、戦後社会の課題を解説する。 四大公害病について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	戦後史④、戦後日本の災害(水害、震災)をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 戦後の主要な災害について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	戦後史⑤、少子高齢化をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 少子高齢化の何が問題か、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	戦後史⑥、国際化・グローバル化をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 日本社会が、現在どれほどグローバル化しているか、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。第8回～第13回までの講義をおさらいする。 第8回～第13回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ。本講義のまとめと復習を行う。 第8回講義、第13回講義を中心に講義の復習をしてくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	歴史と現代Ⅱ			科目コード	6220	
英文名	History and Contemporary Society II			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探索する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	歴史と現代Ⅰが、江戸時代からの社会経済史を通史的に概説したのに対し、本講義が地域史として、「歴史と現代」を概説する。					
授業の狙い・到達目標	地域には、様々な歴史の刻印がある。そうした歴史の刻印を掘り起こし、現代社会に生きる私たちが歴史を学ぶ意義を実感できる講義を目指す。併せて地域史により、日本社会の多様性、社会の重層的な発展に気づく“きっかけ”を与えられるようにしたい。					
授業内容のレベル・関連科目	専攻科目であり、若干、発展的な内容を含む。史学概論や日本文化入門の講義は、基礎学習の意味をもつ。また、歴史と現代Ⅰをあわせて受講することで、理解が深まるものと考え。					
授業外学習(予習・復習)	日本文化入門(後半部分)、史学概論、歴史と現代Ⅰが、本講義の関連科目である。これらの講義を併せて履修する学生が、その講義レジュメを参照することが、有益な予復習となる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点30%、期末テスト70%					
成績評価基準	授業の狙いあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし。					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

## 授業スケジュール

歴史と現代Ⅱ

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	【千葉県の歴史と現代①】北総地域の発展史を概説する。 「加曽利貝塚博物館・特別史跡加曽利貝塚」(You tube)は、おすすめ。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	【千葉県の歴史と現代②】四街道市を中心にその発展史を概説する。 大学正門前の碑に書かれている文字を読んでみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	【江戸／東京の歴史と現代】家康入府以来の江戸(東京)の歴史を概説する。 東京の発展は災害と不即不離の関係にある。明暦の大火や関東大震災について、調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	【京都の歴史と現代】世界遺産「古都・京都の文化財」を中心に、その歴史を概説する。 世界遺産を構成する、古都・京都の文化財について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	【大阪の歴史と現代】古代の難波津の時代から、商都・大阪の発展史を概説する。 大阪城築城以降の大阪の歴史について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。第2回～第6回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	【横浜の歴史と現代】幕末の開港から、国際都市・横浜の150年を概説する。 横浜も関東大震災の影響が大きかった。関東大震災について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	【長崎の歴史と現代】「鎖国」下で、4つの口の1つだった長崎の歴史を概説する。 長崎の近代では、原爆投下の影響も取り上げる。これにつき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	【広島市の歴史と現代】近代広島市の発展を、「軍都・広島」の視点を中心に、概説する。 近代以前の広島では、厳島神社を取り上げる。自分なりに、調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	【北海道の歴史と現代】「蝦夷地」と呼ばれた時代から、現在までの歴史を概説する。 アイヌ民族と日本人の交流などについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	【沖縄の歴史と現代】琉球王国の時代から、沖縄戦・米軍占領までの歴史を概説する。 琉球王国の時代や沖縄戦について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	【福島の歴史と現代】戊辰戦争、安積疎水、福島第一原発などについて、概説する。 常磐炭鉱や福島第一原発事故などについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。第8回～第13回までの講義をおさらいする。 第8回～第13回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ、本講義のまとめと復習を行う。 第8回講義、第13回講義を中心に講義の復習をしてくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	日本語学概論 I			科目コード	6240		
英文名	Outline of Japanese Linguistics I			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input checked="" type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input checked="" type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	日本語を外国語の一つとして捉え、主に助詞や文の組み立て、時制、モダリティといった、日本語学の基礎知識を学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	日本語が、数ある言語の中でどのような特徴を持ち、またどのような仕組みとルールの下で成り立っているのかを理解し、様々な言語現象について客観的に観察したり論理的に分析したりする能力をつける。						
授業内容のレベル・関連科目	留学生は一般的な日本語文法の知識が必要。日本語学概論Ⅱも履修することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	予習) 次回のテーマに関して授業までに考えておくことを提示する。 復習) その日の授業に関連した課題を与える。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	教員が準備したプリントを使用						
参考書・その他教材	『日本語要説改訂版』ひつじ書房 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法改訂版』くろしお出版 庵功雄『新しい日本語入門第2版』スリーエーネットワーク						
課題に対するフィードバック	毎回復習の課題を出し、次の授業で学生の解答を確認する。						
成績評価方法	期末テスト70%、授業態度や課題提出等30%						
成績評価基準	試験: 講義内容の理解度 課題: 内容と提出率						
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から身の回りで使われている日本語を観察し問題意識を持つこと。留学生は講義内容をより確実に理解するため、基本的な日本語文法はしっかり身に付けておくこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.ac.jp						

## 授業スケジュール

日本語学概論 I

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス 「日本語学」とは？ シラバスの内容を確認しておく 教員が提示した復習課題を行う
2回	学習内容 予習 復習	「は」と「が」 「は」と「が」の違いについて考えておく 教員が提示した復習課題を行う
3回	学習内容 予習 復習	格助詞(1) 格助詞とはなにか、どのようなものがあるかを調べておく 教員が提示した復習課題を行う
4回	学習内容 予習 復習	格助詞(2) ほかの格助詞の意味についても考えておく 教員が提示した復習課題を行う
5回	学習内容 予習 復習	自動詞・他動詞 自他動詞の形式や使い方についてまとめておく 教員が提示した復習課題を行う
6回	学習内容 予習 復習	受動態 受身の形式と意味、使い方等について復習しておく 教員が提示した復習課題を行う
7回	学習内容 予習 復習	可能態 可能形の形式と意味、使い方等について復習しておく 教員が提示した復習課題を行う
8回	学習内容 予習 復習	使役態 使役形の形式と意味、使い方等について復習しておく 教員が提示した復習課題を行う
9回	学習内容 予習 復習	時制(1)テンス 「テンス」とは何か、調べておく 教員が提示した復習課題を行う
10回	学習内容 予習 復習	時制(2)アスペクト 「アスペクト」とは何か、調べておく 教員が提示した復習課題を行う
11回	学習内容 予習 復習	とりたて 「とりたて」とは何か、またどんなものがあるか調べておく 教員が提示した復習課題を行う
12回	学習内容 予習 復習	指示詞 指示詞の使い方についてまとめておく 教員が提示した復習課題を行う
13回	学習内容 予習 復習	モダリティ(1) 「モダリティ」とは何か、調べておく 教員が提示した復習課題を行う
14回	学習内容 予習 復習	モダリティ(2) 前回挙げたモダリティのほか、どのようなものがあるか、考えてみる 教員が提示した復習課題を行う
15回	学習内容 予習 復習	これまでのまとめ これまでの内容で不明な点があればまとめておく 教員が提示した復習課題を行う

科目名	日本語学概論Ⅱ			科目コード	6250		
英文名	Outline of Japanese Linguistics II			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	部田 和美		教員コード	153		単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探求する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	日本語を外国語の一つとして捉え、他言語と比較しながら、日本語の特徴的な現象について学ぶ。主に、視点に関わる文法、ボライトネス、文章についての基礎知識を扱う。						
授業の狙い・到達目標	日本語が、数ある言語の中でどのような特徴を持ち、またどのような仕組みとルールの下で成り立っているのかを理解し、様々な言語現象について客観的に観察したり論理的に分析したりする能力をつける。						
授業内容のレベル・関連科目	留学生は一般的な日本語文法の知識が必要。日本語学概論Ⅰも履修することが望ましい						
授業外学習(予習・復習)	予習) 次回のテーマに関して授業までに考えておくことを提示する復習) その日の授業に関連した課題を与える。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教員が準備したプリントを使用						
参考書・その他教材	『日本語要説改訂版』ひつじ書房 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法改訂版』くろしお出版 庵功雄『新しい日本語入門第2版』スリーエーネットワーク						
課題に対するフィードバック	毎回復習の課題を出し、次の授業で学生の解答を確認する。						
成績評価方法	期末テスト70%、授業態度や課題提出等30%						
成績評価基準	試験: 講義内容の理解度 課題: 内容と提出率						
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から身の回りで使われている日本語を観察し問題意識を持つこと。留学生は講義内容をより確実に理解するため、基本的な日本語文法はしっかり身に付けておくこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.ac.jp						

### 授業スケジュール

日本語学概論Ⅱ

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス 日本語文法概説(日本語学概論Ⅰの内容) シラバスをよく読んでおく 教員が提示した復習課題を行う
2回	学習内容 予習 復習	授受動詞(1) 授受動詞の形式と意味について調べておく 教員が提示した復習課題を行う
3回	学習内容 予習 復習	授受動詞(2) 前回の授業内容を踏まえて、授受動詞の派生的な意味について考えてみる 教員が提示した復習課題を行う
4回	学習内容 予習 復習	待遇表現(1) 敬語 敬語にはどのようなものがあるか確認しておく 教員が提示した復習課題を行う
5回	学習内容 予習 復習	待遇表現(2) 配慮の表現 相手に配慮するとはどういうことか考えをまとめておく 教員が提示した復習課題を行う
6回	学習内容 予習 復習	日本語の語彙 語彙の種類について調べておく 教員が提示した復習課題を行う
7回	学習内容 予習 復習	連体修飾(1) 連体修飾とはなにか、調べておく 教員が提示した復習課題を行う
8回	学習内容 予習 復習	連体修飾(2) 連体修飾の意味について確認する 教員が提示した復習課題を行う
9回	学習内容 予習 復習	日本語の文章(1) 文の種類 文章を構成する文の種類について調べておく 教員が提示した復習課題を行う
10回	学習内容 予習 復習	日本語の文章(2) 複文 「と・ば・たら・なら」の使い分けについて調べ、まとめておく 教員が提示した復習課題を行う
11回	学習内容 予習 復習	日本語の文章(3) 複文 複文を構成する表現について調べておく 教員が提示した復習課題を行う
12回	学習内容 予習 復習	他言語との対照(1) 母語と日本語について(または第2外国語について)、その違いを調べてみる 教員が提示した復習課題を行う
13回	学習内容 予習 復習	他言語との対照(2) 母語と日本語について(または第2外国語について)、その違いを調べてみる 教員が提示した復習課題を行う
14回	学習内容 予習 復習	他言語との対照(3) 母語と日本語について(または第2外国語について)、その違いを調べてみる 教員が提示した復習課題を行う
15回	学習内容 予習 復習	これまでのまとめ これまでの内容で不明な点があればまとめておく 教員が提示した復習課題を行う

科目名	日本文化史 I または II			科目コード	6260	
英文名	History of Japanese Culture I or II			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)	
担当教員	梶原 健嗣	教員コード	145	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・1時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	先史時代(石器、縄文、弥生、古墳時代)から現代にいたる日本文化を、通史として学ぶ。この時、各時代を代表する史跡・特別史跡、世界遺産などを中心に講義していく。					
授業の狙い・到達目標	日本文化入門が、「政治・社会と文化」の関連を通史的に学ぶ講義であるのに対し、本講義では、各時代を代表する史跡・特別史跡、世界遺産を時代背景とセットで概説していく。可能な限り、たくさんの事物をとりあげ、解説する。実際に観光で訪れた時などに、その解説がより深く理解できることが講義の最終到達目標である。					
授業内容のレベル・関連科目	専攻科目であり、若干、発展的内容を含む。上述とおり、日本文化入門が最も関連性が高い。他の日本史科目も併せて受講することが理解を深める。					
授業外学習(予習・復習)	今日では、史跡・特別史跡、世界遺産などについてインターネットを通じた情報発信は豊富である。本講義で取り上げる史跡らは、第1回講義で紹介するので、事前/事後学習してほしい。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点30%、期末テスト70%					
成績評価基準	授業の狙いあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、大学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。日本文化史 I としても、同 II としても開講する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし。					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

## 授業スケジュール

日本文化史

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	石器時代から縄文時代まで。加曾利貝塚、三内丸山遺跡などを取り上げる。 加曾利貝塚や三内丸山遺跡の解説動画を見てみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	弥生時代から古墳時代まで。登呂遺跡、吉野ケ里遺跡などを取り上げる。 登呂遺跡や吉野ケ里遺跡の解説動画を見てみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	奈良時代。世界遺産として登録されている、古都・奈良の文化財を取り上げる。 世界遺産「古都・奈良」を構成する社寺につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	平安時代。世界遺産として登録されている、古都・京都の文化財を取り上げる。 世界遺産「古都・京都」を構成する社寺につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	鎌倉時代。鎌倉仏教を中心に講義する。中山法華経寺、鎌倉五山など。 日本の仏教史について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	室町時代。金閣寺、銀閣寺のほか、世界遺産の石見銀山などを取り上げる。 世界遺産・古都京都や、世界遺産・石見銀山などの解説動画を見てみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	江戸時代①、日光東照宮、増上寺、佐渡金山などを取り上げ、江戸初期の文化を学ぶ。 日光の社寺の世界遺産としての意義を、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	江戸時代②、湯島聖堂、小石川植物園などを取り上げ、江戸中期の文化を学ぶ。 封建社会のなかで、朱子学がどう重視されたか、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	江戸時代③、弘道館や葦山反射炉などを取り上げ、江戸後期の文化を学ぶ。 幕末の動乱について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	明治時代、富岡製糸場、八幡製鉄所跡などを取り上げる。 富岡製糸場の世界遺産としての意義を、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	大正以降。東京駅、原爆ドーム、復興小学校などを取り上げる。 原爆ドームの世界遺産としての意義を、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。第9回～第13回までの講義をおさらいする。 第9回～第13回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ。本講義のまとめと復習を行う。 第8回講義、第13回講義を中心に講義の復習をしていくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	東洋文化論 I			科目コード	6280		
英文名	Oriental Culture I			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○ 1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する				
	○ 3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する				
	5.学習の過程で発見した課題を探索する		○ 6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う				
授業概要	東洋は西洋からどのようにイメージされ、記述されてきたのか。文化の表象という問題を考える。そのうえで、東洋的な精神や文化の様相について議論する。						
授業の狙い・到達目標	「オリエント(東洋)」というイメージがどのように作られてきたかについて、文献や資料を通して、植民地時代の状況をふまえて理解を深める。また、履修生の出身国・出身地域の文化がどのように表現されているかについて改めて考える機会とする。						
授業内容のレベル・関連科目	新聞の国際欄、文化欄などが読めると望ましい。また、英語の資料もとりあげるので、英語の読解力も必要とする。(関連科目)文化人類学入門						
授業外学習(予習・復習)	各回の授業の冒頭に小テストを行うので、授業で配布された資料や教員の講義を振り返り、理解を深めておくこと。また、簡単な課題を出す場合もあるので、教員の指示に従って提出すること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	指定しない。						
参考書・その他教材	授業ごとに資料を配布するとともに、テーマに合わせて随時参考文献を指示する。						
課題に対するフィードバック	前週の授業の復習を兼ねて小テストを実施し、それについてコメントをする。						
成績評価方法	小テスト(30%)、期末試験(70%)で評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から自文化や異文化に関心を抱き、東洋と西洋という分け方について自分なりの意見をもっておくこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること。						

## 授業スケジュール

東洋文化論 I

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	西洋と東洋という分け方について批判的に考える。 西洋、東洋のイメージについて考えてくること。 授業前のイメージと講義の内容を比較し、感想をまとめて提出する。
3回	学習内容 予習 復習	芸術作品を通して西洋からみた東洋について考える。 事前に配布した資料に目を通し、芸術作品の印象をまとめてくること。 授業前のイメージと講義の内容を比較し、感想をまとめて提出する。
4回	学習内容 予習 復習	『文明の生態史観』(梅棹忠夫著)を読む①西洋と東洋という分け方の問題点について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	『文明の生態史観』(梅棹忠夫著)を読む②アジアの中の日本という捉え方について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 第2回から第5回までの資料を読み返ししておくこと。 授業で指示された課題の内容にとり組み提出すること。
7回	学習内容 予習 復習	文化を書くことの問題点について人類学の視点から考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	表象とは何かについて概説する。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
9回	学習内容 予習 復習	アジアにおける植民地統治について概観する。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	探検記を読み、植民地時代のインドシナについて学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
11回	学習内容 予習 復習	東南アジアの植民地統治に関する論文を読む。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	植民地博覧会を例に、表象の問題点を考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	近代国家の形成過程で国民がどのように創られてきたかについて学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	観光における民族や文化の表象について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
15回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。



科目名	東洋文化論Ⅱ			科目コード	6290		
英文名	Oriental Culture II			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	清水 聖子		教員コード	132	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input checked="" type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input checked="" type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	バイリンガル教育とは何か、子どもを中心に言語の発達と年齢の関係、バイリンガル教育の理論と実践を紹介していく。						
授業の狙い・到達目標	バイリンガル教育の講義を通じて、言語や異文化に対する知見を得ること。最終的に人間文化とは何かについての理解を深めることを目標とする。						
授業内容のレベル・関連科目	授業内容のレベルはトピックによってはやや専門的なものもあるが、丁寧に説明し、理解したかどうかの確認作業も行う。なお、「異文化理解」を併せて学習することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	予習として、教科書の内容を読んでくること。復習として毎回の授業内容を確認シートにまとめ、次回の授業時に提出すること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	中島和子『完全改訂版 バイリンガル教育の方法』アルク						
参考書・その他教材	参考資料は、随時適宜配布する。						
課題に対するフィードバック	提出された確認シートは、次回の授業時に返却し、解説を行う。						
成績評価方法	確認シート(50%)、授業への貢献度(30%)、レポート(20%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのぐらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	私語及び授業中の退席は厳禁(やむを得ない場合は、教員の了解を得ること)。授業中の板書はノートに書き写す、教科書の重要なポイントは下線を引くことを勧める。後に、確認シートをまとめるときに役立つ。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to : su@aikoku-u.ac.jp)件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

### 授業スケジュール

東洋文化論Ⅱ

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンスー 授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める
2回	学習内容 予習 復習	バイリンガルとは何かについて学ぶ 教科書の第1章を読んでくる 授業内容について振り返り、確認シートにまとめる
3回	学習内容 予習 復習	子どもの母語の発達と年齢について学ぶ 教科書の第2章を読んでくる 授業内容について振り返り、確認シートにまとめる
4回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育理論(前半) 教科書の第3章(p.36~47)を読んでくる 授業内容について振り返り、確認シートにまとめる
5回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育理論(後半) 教科書の第3章(p.48~56)を読んでくる 授業内容について振り返り、確認シートにまとめる
6回	学習内容 予習 復習	家庭で育てるバイリンガル 教科書の第4章を読んでくる 授業内容について振り返り、確認シートにまとめる
7回	学習内容 予習 復習	イメージ方式のバイリンガル教育 教科書の第5章を読んでくる 授業内容を振り返り、確認シートにまとめる
8回	学習内容 予習 復習	年少者英語教育とバイリンガル教育 教科書の第6章を読んでくる 授業内容を振り返り、確認シートにまとめる
9回	学習内容 予習 復習	マイノリティ言語児童生徒とバイリンガル教育 教科書の第7章を読んでくる 授業内容を振り返り、確認シートにまとめる
10回	学習内容 予習 復習	海外児童生徒とバイリンガル教育 教科書の第9章を読んでくる 授業内容を振り返り、確認シートにまとめる
11回	学習内容 予習 復習	バイリンガルと文化の習得 教科書の第10章を読んでくる 授業内容を振り返り、確認シートにまとめる
12回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育への疑問 教科書の第11章を読んでくる 授業内容を振り返り、確認シートにまとめる
13回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育の日本の言語教育への貢献(前半) 教科書の第12章(p.237~241)を読んでくる 授業内容を振り返り、確認シートにまとめる
14回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育の日本の言語教育への貢献(後半) 教科書の第12章(p.241~247)を読んでくる 授業内容を振り返り、確認シートにまとめる
15回	学習内容 予習 復習	まとめ 教科書、確認シート、ノートを読み返す これまでの授業で取り上げた内容について振り返り、レポートにまとめる

科目名	比較文化論Ⅱ			科目コード	6340		
英文名	Comparative Culture II			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	言語政策、手仕事などをテーマに、アジアをはじめ世界の諸地域の文化を比較検討する。四街道市をはじめ千葉県の手仕事に関する実習も行なう。						
授業の狙い・到達目標	手仕事製品の需要が減り職人も急減する現代社会において、AIやICTに代替されない、あるいは、科学技術の時代であるからこそその手仕事の意義について、実習を通して実際の活動にも触れながら、考える。また、世界の言語の多様性とマイノリティの言語への政策についても比較しながら学ぶ。						
授業内容のレベル・関連科目	日頃から手仕事やその製品に関心を持ち、それについて自分なりの意見をもつこと。また、実習において日本語でコミュニケーションが取れ、積極的に関わることが求められる。 (関連科目)文化人類学入門						
授業外学習(予習・復習)	各回の授業で出された簡単な課題に取り組み提出すること。また、実習においては準備段階を含め積極的に取り組み、レポートを提出すること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	指定しない。						
参考書・その他教材	授業ごとに資料を配布するとともに、テーマに合わせて随時参考文献を指示する。						
課題に対するフィードバック	各回に出した課題に対しては、翌週の授業でコメントをする。実習については、学生の取り組みとレポートを受けて、討論を重ねてフィードバックを行なう。						
成績評価方法	実習とレポート(50%)、期末試験(50%)で評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	実習の都合により授業内容が前後する場合がある。実習には長靴を準備すること。なお、実習の場所については、都合により変更となる場合がある。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること。						

## 授業スケジュール

比較文化論Ⅱ

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	世界の手仕事の多様性について学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	日本のものづくりの動画を鑑賞し、手仕事の実際を学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業で鑑賞した動画を振り返り、提示された課題を提出すること。
4回	学習内容 予習 復習	『手仕事の日本』(柳宗悦著)を読み、日本の手仕事の精神と課題について学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、課題を提出すること。
5回	学習内容 予習 復習	日本の衣に着目し、仕立て、繕う手仕事と現代の課題について学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、課題を提出すること。
6回	学習内容 予習 復習	実習の準備:和棉をめぐる手仕事について学ぶ 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
7回	学習内容 予習 復習	「よつかいどう和棉ばたけ」にて実習①和棉づくりについてのインタビュー 第6回の授業の内容を振り返っておくこと。 担当者からの説明を受けて、質問やコメントなどを書いて提出すること。
8回	学習内容 予習 復習	「よつかいどう和棉ばたけ」にて実習②種まき 第7回で受けた説明を振り返っておくこと。 作業を終えて、質問やコメントなどを書いて提出すること。
9回	学習内容 予習 復習	実習で得られた知見を共有し、討論を行なって、レポートを作成する。 実習を振り返り、質問やコメントについて発表できるように準備すること。 討論の内容を組み入れ、指定した期日までにレポートを提出すること。
10回	学習内容 予習 復習	実習の内容とレポートをふまえて、フィードバックを行なう。 レポートを読み返しておくこと。 コメントを受けて、レポートを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	世界の言語政策①世界の言語の多様性について学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	世界の言語政策②国語が創られる過程について学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	世界の言語政策③マイノリティの言語保持について学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	「よつかいどう和棉ばたけ」にて実習③除草 第7回、第8回の内容を振り返っておくこと。 作業を終えて、質問やコメントなどを書いて提出すること。
15回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科目名	文化人類学概論			科目コード	6350		
英文名	Outline of Cultural Anthropology			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	身近な営みである食をテーマに、その文化的なありかた、食と技術、現代の問題等について考える。各論として、米食に着目し、食生活の歴史、食料自給率、米と信仰などについて考える。						
授業の狙い・到達目標	普段あたりまえのように行なっている食を改めて見直し、客観的に捉えなおし、その歴史、技術革新、現代的な諸問題をふまえて、意見を持てるようになる。また、日本の米に関する信仰や慣習について学び、履修生の出身国・出身地域と比較検討することができるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	新聞記事や簡単な論文が読めることが望ましい。また、英語の資料もとりあげるので、英語の読解力も必要とする。(関連科目)文化人類学入門						
授業外学習(予習・復習)	各回の授業で、簡単な課題の提出を求める。小テストを行なう場合もある。また、日本語および英語の文献について、指示された箇所を次の授業までに読んでおくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	指定しない。						
参考書・その他教材	授業ごとに資料を配布するとともに、テーマに合わせて随時参考文献を指示する。						
課題に対するフィードバック	各回に出した課題に対しては、翌週の授業でコメントをする。小テストについては、実施日に授業内容を振り返りながらコメントをする。						
成績評価方法	小テスト(30%)、期末試験(70%)で評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	履修者の学習状況によっては、食に関する実習を行なう場合もある。その際には授業内で指示する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること。						

## 授業スケジュール

文化人類学概論

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	食べることと文化①「食べられるもの」と「食べ物」の違いについて考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	食べることと文化②人類の食生活の多様性について学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	食と技術①品種改良の意義と問題点について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	食と技術②食品の技術開発について学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	食と技術③食べ物の保存について、地域や民族の在来知から学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
7回	学習内容 予習 復習	映画を通して食の現代的な問題を考える。 事前に配布する資料に目を通しておくこと。 映画を見て、食の現代的な問題について意見を書き、提出すること。
8回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 第2回から第7回までの資料を読み返しておくこと。 授業で指示された課題の内容にとり組み提出すること。
9回	学習内容 予習 復習	日本における米食文化①『食生活の歴史』(瀬川清子著)を読み、主食の歴史について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	日本における米食文化②世界の主食からアジアの米食を捉えなおす。 事前に配布した資料に目を通し、受講生の出身国・出身地域の主食について考えてくること。 授業を受けて、出身国・出身地域の主食の変化についてレポートを作成し提出すること。
11回	学習内容 予習 復習	日本における米食文化③農林水産省の資料から米の消費の変化について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	日本における米食文化④米と信仰のかかわりについて考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	日本における米食文化⑤もち米文化圏におけるもち米の利用と意味について学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 第9回から第13回までの資料を読み返しておくこと。 授業で指示された課題の内容にとり組み提出すること。
15回	学習内容 予習 復習	授業全体のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

<b>科目名</b>	日本及びアジアの食文化			<b>科目コード</b>	6360		
<b>英文名</b>	Japanese and Asian Food Culture			<b>科目区分</b>	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
<b>担当教員</b>	市川 遥夏		<b>教員コード</b>	134		<b>単位数</b>	2単位
<b>開講期間</b>	後期	<b>曜日・時限</b>	水曜日・4時限		<b>授業形態</b>	講義	
<b>学位授与方針との対応</b>	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探索する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
<b>授業概要</b>	日本とアジアの食文化、特に日本の食文化を位置づけたうえ米、酒、麺、茶、コーヒーなど食べ物の視点から見た各国食文化の特徴を考察する。						
<b>授業の狙い・到達目標</b>	アジアにおける国民の健康づくりのためにバランスを整った食生活を理解する。アジアの地域ごとの食文化の特徴を知る。各国の食文化の形成から、日本食への影響を考えることができるようになる、						
<b>授業内容のレベル・関連科目</b>	日本とアジアの各国の食文化の特徴およびその違いについて理解を深め、各国の食に関する知恵を日常生活に活かせること。人間文化演習(生活科学分野)を履修予定の学生は、この授業を学習することが望ましい。						
<b>授業外学習(予習・復習)</b>	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組む。授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深める。			<b>授業外学習に必要な時間</b>	各回4時間、 合計60時間		
<b>使用教科書</b>	教科書を使用せず、資料を配布。						
<b>参考書・その他教材</b>	岡田哲編 『食の文化を知る事典』 東京堂 石毛直道著 『世界の食べ物』 講談社						
<b>課題に対するフィードバック</b>	提出されたレポートは、問題のある内容を含むものについて、注意喚起し、採点して返却する。また、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
<b>成績評価方法</b>	発表・レポート(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
<b>成績評価基準</b>	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
<b>履修上の注意事項や学習上の助言</b>	私語・携帯は厳禁。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。						
<b>科目に関連した教員の実務経験</b>	特になし。						
<b>担当教員への連絡方法</b>	オフィスアワー:木曜日昼休み(研究室:2号館2階4号室) 質問はメールでも受け付ける(ichikawa@aikoku-u.org)						

## 授業スケジュール

日本及びアジアの食文化

<b>1回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	ガイダンス、授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
<b>2回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	日本の伝統的食文化としての和食について学ぶ。 和食の食材について調べること。 授業プリントを用いて食文化としての和食について振り返り、理解を深めること。
<b>3回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	和食の特徴について学ぶ。 一汁三菜について調べること。 授業プリントを用いて和食の特徴について振り返り、理解を深めること。
<b>4回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	日本人の味覚と嗜好について学ぶ。 日本人が好きな主食、おかずについて調べること。 授業プリントを用いて日本の日常食事の特徴について振り返り、理解を深めること。
<b>5回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	栄養面から見た日本型食生活的特質について学ぶ。 ニュートリゲノミクスについて調べること。 授業プリントを用いて日本型食生活について振り返り、理解を深めること。
<b>6回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	京の食文化について学ぶ。 日本料理の五体系について調べること。 授業プリントを用いて京の食文化について振り返り、理解を深めること。
<b>7回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	日本の行事と食文化について学ぶ。 日本の年中行事・節句について調べること。 授業プリントを用いて日本行事食について振り返り、理解を深めること。
<b>8回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	アジア食文化、中国、韓国、モンゴルの食材、料理および栄養について学ぶ。 中国、韓国、モンゴルの食材の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各国の料理および栄養のバランスについて振り返り、理解を深めること。
<b>9回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	アジア食文化、ベトナム、タイ、カンボジアの食材、料理および栄養について学ぶ。 ベトナム、タイ、カンボジアの食材の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各国の料理および栄養のバランスについて振り返り、理解を深めること。
<b>10回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	アジア食文化、インド、スリランカ、ネパールの食材、料理および栄養について学ぶ。 インド、スリランカ、ネパール料理の食材の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各国の料理および栄養のバランスについて振り返り、理解を深めること。
<b>11回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	嗜好品の文化、アジアのアルコール飲料について学ぶ。 酒の種類について調べること。 授業プリントを用いてアジアのアルコール飲料について振り返り、理解を深めること。
<b>12回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	嗜好品の文化、アジアの茶とコーヒーについて学ぶ。 自国の茶とコーヒーについて調べること。 授業プリントを用いて各国の茶およびコーヒーの特徴について振り返り、理解を深めること。
<b>13回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	微生物を利用する知恵、発酵食品の不思議について学ぶ。 発酵食品の種類について調べること。 授業プリントを用いて発酵食品の機能について振り返り、理解を深めること。
<b>14回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	微生物を利用する知恵、アジアの発酵食品について学ぶ。 自国の発酵食品について調べること。 授業プリントを用いてアジアの発酵食品の特徴について振り返り、理解を深めること。
<b>15回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	まとめ 今までの授業内容について見直し、復習をしていくこと。 授業内容について理解を深めること。

科目名	現代の社会			科目コード	6400		
英文名	Contemporary Society			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	羽田 久久	教員コード	155	単位数	2単位		
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・1時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探索する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	日本各地にある様々な人文観光資源について、映像などを使用しながら理解しやすく説明する。なお、人文観光資源とは宗教、芸術、歴史など人文学的な観点から捉えることのできる観光資源のことである。						
授業の狙い・到達目標	人と人とのかわり方が変化している現在、観光振興を図ることにより交流人口を増加させるとい、新たな街づくりの手法が模索されている。本講義では、地域文化や伝統を含有する人文観光資源を通じて地域の理解を深め、現代社会ならびに日本の地域について把握することを目指す。						
授業内容のレベル・関連科目	観光学の入門的なレベルの講義である。人文観光資源以外の日本の観光資源の理解を深めるために、現代の経済ならびに地域研究Ⅱの履修を推奨する。						
授業外学習(予習・復習)	授業計画を確認して、参考になりそうな事象について事前に確認しておくことが予習に繋がる。授業時に配布する資料や自身で作成したノートを元に、しっかりと復習をおこなうこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教科書は使用せず、その都度レジュメを配布する。						
参考書・その他教材	昭文社(2020)『旅地図日本』、昭文社 旅行のパンフレットやガイドブック、時刻表などは積極的に手にして目を通すこと。						
課題に対するフィードバック	授業ごとに小テストを課し、そのフィードバックは随時おこなう。その他疑問点があれば次回以降の授業で回答する。						
成績評価方法	期末試験(70%)、授業への貢献度(30%)により、総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃から授業に関連したニュース等を意識して、知識の取得に努めること。復習を重点的におこない、授業内容の理解を深めること。授業計画は社会情勢や学生の理解度等を勘案して、変更する可能性がある。						
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行に関する全般的な業務を担当(経験)(第3回～第13回は実務経験を踏まえた講義である)						
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。連絡先は第一回の授業で伝える。						

## 授業スケジュール

現代の科学

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、本講義の目的と内容、授業の進め方について 授業計画を熟読して、授業の概要について理解しておくこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2回	学習内容 予習 復習	観光資源の類型と分類・人文、自然、社会、それぞれの観光資源の違い 観光資源とはどのようなものが考えられるか、まとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
3回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(1) 神社、寺院、教会 関東地方で有名な神社や寺を見つけて調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
4回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(2) 城跡、城郭、宮殿 日本の国宝となっている城について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
5回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(3) 集落、街 観光地として有名な集落、街はどのような場所があるか調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
6回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(4) 郷土景観 日本らしい郷土景観とはどのようなものか、またその場所はどこか、調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
7回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(5) 街道、古道 道をたどる観光とはどういうことを指すのか、自分なりに考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
8回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(6) 建造物 橋や塔など、著名な建造物はどのようなものがあるか、調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
9回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(7) 博物館、美術館 行ってみて素晴らしかった、あるいは行ってみたい博物館、美術館について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
10回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(8) 宗教と旅 旅と宗教の具体的な事例とはどのようなものがあるか、確認しておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
11回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(9) 年中行事、祭り 見に行きたい日本の祭りを一つ取り上げ、その内容について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
12回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(10) 食 日本らしい食とはどのようなものか、自分なりの意見をまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
13回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(11) 温泉 日本の温泉地を一つ取り上げ、その内容について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
14回	学習内容 予習 復習	新しい人文観光資源 これから人文観光資源を加えるとしたら、どのようなものがあるか考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
15回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめ これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 授業内容全般を振り返り、人文観光資源についての理解を深めること。

科目名	日本国憲法（現代の法律Ⅰ）			科目コード	6410		
英文名	The Constitution of Japan (Contemporary Law I)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)		
担当教員	太田和 良幸		教員コード	154		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	日本国憲法についての基本的知識並びに我が国の法制度の概要を学ぶ。授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。						
授業の狙い・到達目標	日本国憲法その他の法律についての理解を深め、関連する社会情勢についても関心を持ち、自分なりの考え方を育てるようにする。						
授業内容のレベル・関連科目	必要とする先修科目はないが、高等学校の社会科学などの知識が必要であり、これらが基礎となる。関連する科目としては、「法律学概論(現代の法律Ⅱ)」がある。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめ、授業に持参すること また、毎回授業内容について振り返り(復習し)、これをレポートにまとめ、次回の授業時に提出すること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	吉田成利『大学生のための日本国憲法入門』慶応義塾大学出版会						
参考書・その他教材	e-Gov法令検索 (web上で提供される日本の法令の検索・閲覧システム)						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日常生活を通じて、法について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。						
科目に関連した教員の実務経験	国家公務員(内閣府、文部科学省、外務省に勤務) 特に国家公務員としての実務経験に基づく授業内容となる授業スケジュール回(学習内容欄)には★印を付して下線を引いてある。						
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to: ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

## 授業スケジュール

日本国憲法(現代の法律Ⅰ)

1回	学習内容 予習 復習	【ガイダンス】授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2回	学習内容 予習 復習	社会規範と法の関係並びに法制度の概要について学ぶ。 社会規範の中の法の役割について調べ、理解を得ること 授業内容(法制度の概要)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
3回	学習内容 予習 復習	憲法の定義と目的、憲法の基本原則と構造について学ぶ。 教科書の第1章「日本国憲法とは？」を読んで理解を得ること 授業内容(日本国憲法の概要)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
4回	学習内容 予習 復習	憲法における天皇の位置づけ、天皇の仕事について学ぶ。 教科書の第2章「天皇と象徴」を読んで理解を得ること 授業内容(日本の天皇制度)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
5回	学習内容 予習 復習	憲法が定める人権とはどうか、どういう場合に人権は制限されるのかについて学ぶ。 教科書の第3章「人権の制限」を読んで理解を得ること 授業内容(人権制度)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
6回	学習内容 予習 復習	信教の自由、政教分離の原則について学ぶ。 教科書の第4章「信教の自由と政教分離」を読んで理解を得ること 授業内容(信教の自由、政教分離の原則)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
7回	学習内容 予習 復習	表現の自由、知る権利、通信の秘密、プライバシー権、肖像権などについて学ぶ。 教科書の第5章「表現の自由とプライバシーの侵害」を読んで理解を得ること 授業内容(表現の自由、通信の秘密など)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
8回	学習内容 予習 復習	★学問の自由、教育を受ける権利と義務教育について学ぶ。 教科書の第6章「学問の自由と義務教育」を読んで理解を得ること 授業内容(学問の自由、義務教育制度など)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
9回	学習内容 予習 復習	婚姻の自由、男女平等について学ぶ。 教科書の第7章「婚姻の自由と男女平等」を読んで理解を得ること 授業内容(婚姻の自由、男女平等など)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
10回	学習内容 予習 復習	勤労の自由、生存権、財産権について学ぶ。 教科書の第8章「勤労の自由と生存権」を読んで理解を得ること 授業内容(勤労の自由、生存権、財産権)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
11回	学習内容 予習 復習	立法権、立法府の仕事、国会議員の特権について学ぶ。 教科書の第9章「立法と国会」を読んで理解を得ること 授業内容(立法制度(国会))について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
12回	学習内容 予習 復習	★行政権、内閣総理大臣の権限と役割、独立行政委員会について学ぶ。 教科書の第10章「行政と内閣」を読んで理解を得ること 授業内容(内閣制度(行政))について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
13回	学習内容 予習 復習	司法権、裁判官の権限と役割について学ぶ。 教科書の第11章「司法と裁判所」を読んで理解を得ること 授業内容(司法制度(裁判所))について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
14回	学習内容 予習 復習	地方自治の本旨と地方公共団体の組織・機能について学ぶ。 教科書の第12章「地方自治」を読んで理解を得ること 授業内容(地方自治制度)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
15回	学習内容 予習 復習	【まとめ】憲法9条と自衛隊、新しい人権など、憲法をめぐる諸問題について学ぶ。 教科書の第13章「憲法9条と自衛隊」、第15条「新しい人権」を読んで理解を得ること 全15回の授業を振り返り、日本国憲法についての諸課題をとりまとめること

科目名	法学概論(現代の法律Ⅱ)				科目コード	6420	
英文名	Outline of Law (Contemporary Law II)				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	太田和 良幸		教員コード	154	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する	<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	日常生活で遭遇する可能性のある各種の法的事案について、どのように対処したら良いのか具体的な事例に沿って学習することにより、法に親しみ、法の理解を促進する。						
授業の狙い・到達目標	法律や条例についての理解を深め、日常生活で遭遇する事案やマスコミなどで報道される種々の事案について、法の観点から興味を持ち、考えられるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	高等学校の社会科などの知識が必要であり、これらが基礎となる。 本授業の履修に当たっては、事前に「現代の法律Ⅰ」を履修することが望まれる。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめること また、毎回授業内容について振り返り、これをレポートにまとめること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	池田真朗・犬伏由子・野川忍他『法の世界へ 第7版』有斐閣アルマ						
参考書・その他教材	e-Gov法令検索 (web上で提供される日本の法令の検索・閲覧システム)						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日常生活の中で法について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。						
科目に関連した教員の実務経験	国家公務員(内閣府、文部科学省、外務省に勤務) 特に国家公務員としての実務経験に基づく授業内容となる授業スケジュール回(学習内容欄)には★印を付して下線を引いてある。						
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to: ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

## 授業スケジュール

法学概論(現代の法律Ⅱ)

1回	学習内容 予習 復習	【ガイダンス】授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2回	学習内容 予習 復習	社会規範と法の関係並びに法制度の概要について学ぶ。 社会規範の中の法の役割について調べ、理解を得ること 授業内容(法制度の概要)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
3回	学習内容 予習 復習	多くの人が経験する「婚姻」についてその意味、法律的效果を学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 授業内容(婚姻の成立と効力)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
4回	学習内容 予習 復習	殆どの学生が経験する「成年」についてその意味、法律的效果を学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 授業内容(青年と未成年)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
5回	学習内容 予習 復習	住まいを借りた時に生じる諸問題について法律の観点から学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 授業内容(住まいと賃借契約)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
6回	学習内容 予習 復習	インターネット使用時に遭遇する可能性のある詐欺事案について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 授業内容(インターネット上の詐欺)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
7回	学習内容 予習 復習	インターネット上で陥りやすい権利侵害の事案について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 授業内容(インターネット上の権利侵害)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
8回	学習内容 予習 復習	情報化社会にあつて「情報」の取扱に関して注意すべき点について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 授業内容(情報公開と個人情報保護)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
9回	学習内容 予習 復習	★知的財産権がインターネット上でどのように保護されているかについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 授業内容(インターネットと知的財産権)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
10回	学習内容 予習 復習	消費者契約上でどのように消費者の利益が保護されているかについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 授業内容(消費者契約と消費者保護)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
11回	学習内容 予習 復習	友人間での感情的対立が引き起こすトラブルの法律的效果について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 授業内容(友人間でのトラブル)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
12回	学習内容 予習 復習	★各種の迷惑行為と各都道府県が制定する条例との関係について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 授業内容(迷惑行為と条例)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
13回	学習内容 予習 復習	アルバイトで経験する労働環境と労働法との関係について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 授業内容(アルバイトと労働法)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
14回	学習内容 予習 復習	自動車運転に関する法制と事故時の責任等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 授業内容(自動車運転と責任)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
15回	学習内容 予習 復習	【まとめ】法制度における今日的課題について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくる 全15回の授業を振り返り、法制度の今日的諸課題をとりまとめること

科目名	環境法と福祉法 I			科目コード	6430		
英文名	Environmental and Welfare Law I			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	太田和 良幸		教員コード	154		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	医療保険や年金保険、障害者への支援、高齢者福祉と介護、貧困と生活保護、子育て支援、子供への虐待、労働を取り巻く環境等の人間の一生に関わる現代の法律・制度について学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	人生のライフサイクルに寄り添う社会保障の法制度の現状と課題について理解を深め、合わせて関連する社会の状況についても関心を持ち、これらについて自分なりの考え方を育てるようにする。						
授業内容のレベル・関連科目	必要とする先修科目はないが、高等学校の社会科などの知識が必要であり、これらが基礎となる。関連する科目としては、「生活福祉論」、「社会福祉論」、「社会保障論」などがある。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめること また、毎回授業内容について振り返り、これをレポートにまとめること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジュメなどを配布する。						
参考書・その他教材	e-Gov法令検索 (web上で提供される日本の法令の検索・閲覧システム)						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	国家公務員(内閣府、文部科学省、外務省に勤務) 特に国家公務員としての実務経験に基づく授業内容となる授業スケジュール回(学習内容欄)には★印を付して下線を引いてある。						
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to: ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

## 授業スケジュール

環境法と福祉法 I

1回	学習内容 予習 復習	【ガイダンス】 授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2回	学習内容 予習 復習	【福祉関係法の概要】 福祉関係法の概要と沿革について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
3回	学習内容 予習 復習	【医療保険制度と法】 健康保険法、国民健康保険法について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
4回	学習内容 予習 復習	【障害者の福祉と法】 障害者基本法、障害者総合支援法について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
5回	学習内容 予習 復習	【高齢者福祉・介護制度と法】 高齢者福祉法、介護保険法等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
6回	学習内容 予習 復習	【貧困対策と法】 所得税法、子供の貧困対策法について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
7回	学習内容 予習 復習	【外国人労働者受入と法】 出入国管理法について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
8回	学習内容 予習 復習	【生活保護と法】 生活保護法について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
9回	学習内容 予習 復習	【年金保険制度と法】 国民年金法、厚生年金保険法について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
10回	学習内容 予習 復習	【健康管理施策と法】 健康増進法について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
11回	学習内容 予習 復習	★【子ども・子育て支援と法】 児童福祉法、認定こども園法等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
12回	学習内容 予習 復習	【子どもへの虐待と法】 児童虐待防止法、里親制度(児童福祉法)について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
13回	学習内容 予習 復習	★【嫌がらせ対策と法】 いじめ防止法、ハラスメント規制法、ストーカー規制法等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
14回	学習内容 予習 復習	【労働者保護と法】 労働基本法、最低賃金法、パートタイム・有期雇用労働法等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
15回	学習内容 予習 復習	【まとめ】 福祉関係法の今日的課題について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 全15回の授業を振り返り、福祉関係法の今日的課題についてとりまとめること



科目名	環境法と福祉法Ⅱ			科目コード	6440		
英文名	Environmental and Welfare Law II			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	太田和 良幸		教員コード	154	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する	<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	私たちの日常生活に直接かかわってくる水、大気、土壌の汚染防止に関する法、廃棄物処理に関する法、各種リサイクル法、自然環境保護法、地球温暖化対策法、環境アセスメント法など、環境問題に取り組む法制度の現状と課題について学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	環境問題に対する法制度について、その現状と課題について理解を深め、関連する社会の状況についても関心を持ち、これらについての自分なりの考え方を育てるようにする。						
授業内容のレベル・関連科目	環境問題の理解には、高等学校の各教科を横断する総合的な学習能力が必要である。関連する科目としては、「環境学入門」、「環境行政と福祉行政Ⅱ」などがある。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめること また、毎回授業内容について振り返り、これをレポートにまとめること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジュメなどを配布する。						
参考書・その他教材	e-Gov法令検索 (web上で提供される日本の法令の検索・閲覧システム)						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日頃から環境問題について関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to: ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

### 授業スケジュール

環境法と福祉法Ⅱ

1回	学習内容 予習 復習	【ガイダンス】 授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2回	学習内容 予習 復習	【環境関係法の概要】 環境問題と環境関係法の概要について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
3回	学習内容 予習 復習	【環境問題に関する基本法】 環境基本法について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
4回	学習内容 予習 復習	【地球温暖化対策と法】 地球温暖化対策推進法、気候変動適応法、パリ協定等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
5回	学習内容 予習 復習	【大気環境対策と法】 大気汚染防止法、騒音規制法、悪臭防止法等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
6回	学習内容 予習 復習	【水環境対策と法】 水質汚濁防止法、湖沼水質保全特別措置法、浄化槽法について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
7回	学習内容 予習 復習	【土壌環境対策と法】 土壌汚染対策法、工業用水法等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
8回	学習内容 予習 復習	【廃棄物対策等と法】 循環型社会形成基本法、家電・容器包装・食品リサイクル法等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
9回	学習内容 予習 復習	【自然環境への影響評価と法】 環境影響評価法について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
10回	学習内容 予習 復習	【自然保護と法】 自然環境保全法について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
11回	学習内容 予習 復習	【自然景観等の保護と法】 自然公園法、景観法、世界遺産条約等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
12回	学習内容 予習 復習	【生物多様性の保全と法】 生物多様性基本法等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
13回	学習内容 予習 復習	【都市緑地等の保全と法】 都市公園法、都市緑地保全法等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
14回	学習内容 予習 復習	【野生生物の保護と法】 種の保存法、外来生物法、動物愛護法などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
15回	学習内容 予習 復習	【まとめ】 環境関係法の今日的課題について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 全15回の授業を振り返り、環境関係法の今日的諸課題についてとりまとめること

科目名	環境行政と福祉行政Ⅱ			科目コード	6460		
英文名	Environmental and Welfare Administration II			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	太田和 良幸		教員コード	154		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する	<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	環境保全、環境再生、公害防止などの環境行政領域における行政の役割とその実際について、具体的事例に即して学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	環境行政の各領域ごとに、それぞれの行政の特徴について理解を深めるとともに、当該領域での課題を明らかにする。						
授業内容のレベル・関連科目	環境問題の理解には、高等学校の各教科を横断する総合的な学習能力が必要である。関連する科目としては、「環境学入門」、「環境法と福祉法Ⅱ」などがある。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめること また、毎回授業内容について振り返り、これをレポートにまとめること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジュメなどを配布する。						
参考書・その他教材	講義内で適宜紹介する。						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日頃から福祉問題について関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to: ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

## 授業スケジュール

環境行政と福祉行政Ⅱ

1回	学習内容 予習 復習	【ガイダンス】授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2回	学習内容 予習 復習	【環境行政とは】環境行政とはどのような行政なのかについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
3回	学習内容 予習 復習	【環境保全の基本的政策】環境の保全に関する基本的な政策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
4回	学習内容 予習 復習	【地球温暖化、気候変動対策】温室効果ガス対策など地球温暖化、気候変動対策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
5回	学習内容 予習 復習	【京都議定書、パリ協定】気候変動に関する国際的枠組み、協定について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
6回	学習内容 予習 復習	【エネルギー対策】持続可能な社会の実現に向けてのエネルギーの見直しなどについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
7回	学習内容 予習 復習	【公害の防止 ①】大気汚染、排ガス規制など大気環境・自動車対策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
8回	学習内容 予習 復習	【公害の防止 ②】水質汚濁、海洋ゴミ対策など水環境の保全対策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
9回	学習内容 予習 復習	【自然環境の保全】世界自然遺産など自然環境の保全施策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
10回	学習内容 予習 復習	【公園・景勝地等の整備】優れた自然の保護、利用推進施策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
11回	学習内容 予習 復習	【生物多様性の保全】生物多様性の意義とその保全施策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
12回	学習内容 予習 復習	【野生生物の保護】野生動植物の種の保存、野生鳥獣の保護・管理対策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
13回	学習内容 予習 復習	【環境再生・資源循環】廃棄物の処理、3Rなど環境再生・資源循環対策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
14回	学習内容 予習 復習	【環境影響評価】環境アセスメントの方法と意義について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
15回	学習内容 予習 復習	【まとめ】環境行政の意義と今日的課題について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習しておくこと 全15回の授業を振り返り、環境行政の今日的諸課題についてとりまとめること

科目名	現代の政治			科目コード	6470		
英文名	Contemporary Politics			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	栗林 慶		教員コード	158		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	グローバル化とヒトの国際移動をキーワードに、現代の政治を考える。 前半は、グローバル化によって変わる政治経済とその影響について学ぶ。 後半は世界各地のエスニック集団の事例について講義する。						
授業の狙い・到達目標	現代社会の政治を理解する手がかりとして、グローバル化の概念をヒトの国際移動の観点からの確に理解することが本講義のねらいである。外国人コミュニティの事例からグローバル化によって生じる諸問題を学び、自分なりの問題意識を持つことを到達目標とする。						
授業内容のレベル・関連科目	前提となる専門知識や履修科目は設定しない。 多文化社会共生論を、関連科目として挙げておく。						
授業外学習(予習・復習)	日頃からニュースや新聞などに目を通し、グローバル化現象や、外国人コミュニティに関して関連知識を得ること。 小レポートへの準備として、講義の内容はよく復習し、不明な用語は調べておくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	なし。						
参考書・その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。						
課題に対するフィードバック	優秀な小レポートについては、参考として授業内で示す。						
成績評価方法	定期試験(50%)、授業への貢献度(30%)、小レポート(20%)により判断する。						
成績評価基準	本学の学業成績判定に関する規程の基準により、評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。						
科目に関連した教員の実務経験	なし。						
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメールにて受け付ける。(kei@aikoku-u.ac.jp) 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

## 授業スケジュール

現代の政治

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス 講義の進め方・成績評価などについての説明 シラバスをよく読んでおく。 講義の目的、内容、進め方などを確認し、理解しておく。
2回	学習内容 予習 復習	国家、国民、民族の定義と国際政治の歴史 国家や国民、民族といった用語をあらかじめ調べ、理解しておく。 講義で説明された概念などを説明できるように復習する。
3回	学習内容 予習 復習	グローバル化の進展 その1 国際政治におけるグローバル化と、ヒト・モノ・カネの国際移動 グローバル経済や国際政治に関するニュース・新聞記事を読んでおく。 講義の内容をふまえて予習の内容を深め、小レポートの準備をする。
4回	学習内容 予習 復習	グローバル化の進展 その2 移住とは、移民とは 世界の移民問題に関するニュース・新聞記事を読んでおく。 講義の内容をふまえて予習の内容を深め、小レポートの準備をする。
5回	学習内容 予習 復習	グローバル化の進展 その3 日本における移民と、経済的・社会的影響 日本国内の移民問題に関するニュース・新聞記事を探し、詳細を確認しておく。 講義の内容をふまえて予習の内容を深め、小レポートの準備をする。
6回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ これまでの講義資料を使用し、グローバル化の概念について予習しておく。 小レポートを提出する。
7回	学習内容 予習 復習	エスニック集団の形成と現地社会への適応 第3回から第5回の内容を重点的に復習しておく。 次回以降の内容を想定し、エスニック集団の適応が実際にどのように行われているか考える。
8回	学習内容 予習 復習	世界のチャイナタウンと日本の華人社会 チャイナタウンがどのような国や地域でみられるかを調べておく。 前回の内容と合わせて復習をする。中国系移民がどのように現地に適応しているか考える。
9回	学習内容 予習 復習	北米のエスニック社会 アメリカとカナダの移民政策について、概略を調べておく。 北米の中国系移民とその他とを比較し、北米のエスニック社会の理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパのエスニック社会 EUや周辺諸国で生じている移民問題について調べておく。 EUの移民問題と北米の移民問題との違いを考える。
11回	学習内容 予習 復習	海外の日系人社会 日本から海外への移住の歴史について調べておく。 日本人の海外移住の歴史を、近年のアジアの国々の動向と比較しながら復習する。
12回	学習内容 予習 復習	日本のコリアン社会 日本のコリアン社会の歴史について、概要を調べておく。 日本文化と日本のコリアン社会の相互の影響について、サブカルチャーなどを切り口に考える。
13回	学習内容 予習 復習	日本のエスニック集団の新たな動向 身近な事例から、どのようにしたら様々なバックグラウンドの人々が共生できるか、考えておく。 講義の内容をふまえて、予習の内容を深める。
14回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ これまでの講義資料を使用し、エスニック社会についての予習しておく。 小レポートを提出する。
15回	学習内容 予習 復習	講義のふりかえり 小レポートを見返し、どういった修正が必要であったかを考えておく。 講義内容を自身の身近な事例にあてはめ、どのような課題があるかを考える。

科目名	現代の経済			科目コード	6480		
英文名	Contemporary Economy			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	羽田 利久	教員コード	155	単位数	2単位		
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・2時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探索する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	本講義では、観光資源の実態と活用の事例につき、12の具体的事例に基づき、講義する。そのなかで、観光資源の重要性、観光産業が現代経済に果たしている役割を的確に理解してもらう。						
授業の狙い・到達目標	まずは観光資源とはどのようなものがあるか、その分類を把握する。そして個別の観光資源について理解をすることを目指し講義を行う。観光は観光資源という要素の組み合わせで成り立つことを理解し、その全体像をつかむことを最終的な到達目標とする。						
授業内容のレベル・関連科目	観光学の入門的なレベルの講義である。同様の狙いである現代の社会、地域研究Ⅱと併せての受講を推奨する。						
授業外学習(予習・復習)	授業計画を確認して、参考になりそうな時事問題について事前に確認をしておくことが予習に繋がる。授業時に配布する資料や自身で作成したノートを元に、しっかりと復習をおこなうこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教科書は使用せず、その都度レジュメを配布する。						
参考書・その他教材	昭文社(2020)『旅地図日本』、昭文社 旅行のパンフレットやガイドブック、時刻表などは積極的に手にして目を通すこと。						
課題に対するフィードバック	授業ごとに小テストを課し、そのフィードバックは随時おこなう。その他疑問点があれば次回以降の授業で回答する。						
成績評価方法	期末試験(70%)、授業への貢献度(30%)により、総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃から授業に関連したニュース等を意識して、知識の取得に努めること。復習を重点的におこない、授業内容の理解を深めること。授業計画は社会情勢や学生の理解度等を勘案して、変更する可能性がある。						
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行に関する全般的な業務を担当(経験)(第4回～第14回は実務経験を踏まえた講義である)						
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。連絡先は第一回の授業で伝える。						

## 授業スケジュール

現代の経済

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、本講義の目的と内容、授業の進め方について 授業計画を熟読して、授業の概要について理解をして臨むこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2回	学習内容 予習 復習	観光についての理解と観光資源 人はなぜ観光に行くのか、その理由について考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
3回	学習内容 予習 復習	観光資源の分類 観光資源とはどのようなものが考えられるか、まとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
4回	学習内容 予習 復習	観光資源の実態と活用(1) 日本の世界遺産 日本の世界遺産はどのようなものがあるのか、事前に調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
5回	学習内容 予習 復習	観光資源の実態と活用(2) 交通1 鉄道、駅 最近注目されている観光資源としての鉄道の事例について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
6回	学習内容 予習 復習	観光資源の実態と活用(3) 交通2 飛行機、船舶 航空機や船舶は観光資源としてどのように活用されているか、事例を調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
7回	学習内容 予習 復習	観光資源の実態と活用(4) 交通3 その他の交通手段 交通手段が観光資源として活用されている事例について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
8回	学習内容 予習 復習	観光資源の実態と活用(5) 宿泊施設 目的地とされる宿泊施設にはどのようなものがあるか、またその理由について考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
9回	学習内容 予習 復習	観光資源の実態と活用(6) 体験型観光 体験型観光はどのようなものが考えられるか、まとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
10回	学習内容 予習 復習	観光資源の実態と活用(7) スポーツツーリズム スポーツを通じた旅行とはどのようなものがあるか調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
11回	学習内容 予習 復習	観光資源の実態と活用(8) 産業観光 産業観光の具体的事例について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
12回	学習内容 予習 復習	観光資源の実態と活用(10) コンテンツツーリズム コンテンツツーリズムとして行ってみたい場所を考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
13回	学習内容 予習 復習	観光資源の実態と活用(11) テーマパーク テーマパークはなぜ行きたくなるのか、その理由について考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
14回	学習内容 予習 復習	観光資源の実態と活用(12) 動物園、水族館 行きたくなる動物園、水族館はどのようなものか、考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
15回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめ これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 授業内容全般を振り返り、観光資源についての理解を深めること。

科目名	社会保障論 I			科目コード	6490		
英文名	Social Security I			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	中村 塑		教員コード	138		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/> 1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する				
	<input type="radio"/> 3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する				
	<input type="radio"/> 5.学習の過程で発見した課題を探究する		<input type="radio"/> 6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う				
授業概要	医療保険・介護保険・年金・雇用保険・労働者災害補償保険といった現代日本の社会保障制度について解説するが、それにとどまらず、民間保険や社会保障の歴史と構造についても注目する。						
授業の狙い・到達目標	社会保障の各制度の基本的な考え方、仕組みを理解する。政治や経済と関連させて、社会保障制度を大きく捉える。						
授業内容のレベル・関連科目	社会科学に関する科目としては応用レベルである。したがって、「現代政治入門」と「現代経済入門」を事前に、あるいは並行して履修することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』(有斐閣)2021年						
参考書・その他教材	なし						
課題に対するフィードバック	特になし						
成績評価方法	定期試験(100%)による						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	社会保障論 I と II を合わせて履修するのが望ましい。(社会主事任用資格に関心がある者は履修すること)						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7 TEL:043-424-4892						

## 授業スケジュール

社会保障論 I

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2回	学習内容 予習 復習	社会保障の見取り図(社会保障を学ぶ意義、社会保障の概念整理、社会保障の学び方) 教科書の序章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3回	学習内容 予習 復習	医療保険 I (医療サービスを保障する仕組み、被保険者と保険料、保険給付) 教科書第1章の1. 2. 3を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4回	学習内容 予習 復習	医療保険 II (診療報酬と薬価基準、高齢者医療制度、国民医療費、医療提供体制) 教科書第3章の4. 5. 6. 7を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5回	学習内容 予習 復習	生活保護と社会福祉制度(生活保護、社会福祉制度、社会手当) 教科書第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6回	学習内容 予習 復習	介護保険 I (会議サービスを保障する仕組み、保険者、被保険者と保険料) 教科書第3章の1. 2. 3を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7回	学習内容 予習 復習	介護保険 II (保険給付、介護提供体制、権利保護) 教科書第3章の4. 5. 6を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8回	学習内容 予習 復習	年金 I (所得を保障する仕組み、被保険者と保険料、老齢年金) 教科書第4章の1. 2. 3を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9回	学習内容 予習 復習	年金 II (財政方式、障害年金、遺族年金) 教科書第4章の4. 5. 6を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10回	学習内容 予習 復習	年金 III (年金の業務体制、企業年金等) 教科書第4章の7. 8を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11回	学習内容 予習 復習	雇用保険(失業した場合に所得を保障する仕組み、被保険者と保険料、保険給付、雇用保険事業) 教科書第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12回	学習内容 予習 復習	労働者災害補償保険(業務上の事故について補償する仕組み、保険給付など) 教科書第6章を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13回	学習内容 予習 復習	社会保険と民間保険(保険の仕組み、民間保険の種類と働きなど) 教科書第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14回	学習内容 予習 復習	社会保障の歴史と構造 I (世界の社会保障の歴史、日本の社会保障の歩み) 教科書第8章の1. 2を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15回	学習内容 予習 復習	社会保障の歴史と構造 II (社会保障の機能と財政、現在の社会保障の課題と今後の展望) 教科書第8章の3. 4. 5を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること

科目名	社会保障論Ⅱ			科目コード	6500		
英文名	Social Security II			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	中村 塑		教員コード	138	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		○ 6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	本授業で注目するのは、江戸時代の高齢者とその周辺である。現代の日本は「高齢社会」であるが、過去をみると泰平の世といわれた江戸時代にも相当な数の高齢者が存在した。前代ではほとんどみられなかった長命化という現象に江戸時代の人々はいかなる対応をしたのか解説する。						
授業の狙い・到達目標	江戸時代の社会に関する基本的な知識を身につける。 現代の高齢社会を相対化する視点を獲得し、江戸時代の経験を現代に活かすことができるか考える。						
授業内容のレベル・関連科目	社会科学に関する科目としては応用レベルであり、歴史の授業でもある。したがって、「日本文化史Ⅰ・Ⅱ」や「歴史と現代Ⅰ・Ⅱ」を事前にあるいは、並行して履修することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	柳谷慶子『江戸時代の老いと看取り』（山川出版社）2011年						
参考書・その他教材	なし						
課題に対するフィードバック	特になし						
成績評価方法	定期試験(100%)による。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	社会保障論ⅠとⅡを合わせて履修するのが望ましい。 (社会主事任用資格に関心がある者は履修すること)						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7 TEL:043-424-4892						

## 授業スケジュール

社会保障論Ⅱ

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2回	学習内容 予習 復習	江戸時代の長命化と現代の高齢社会 「①-老いへのまなざし」を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3回	学習内容 予習 復習	江戸時代の高齢農民 「老いて働く農民」「高齢の当主と後家当主」を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4回	学習内容 予習 復習	江戸時代の高齢武士 「江戸後期の幕府高齢役人」「長生きこそが「武士道」」を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返ること
5回	学習内容 予習 復習	江戸時代の高齢奥女中 「老いて現役の奥女中」「武士と奥女中の隠居」を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6回	学習内容 予習 復習	江戸時代の高齢町人 「庶民の隠居契約」「隠居女性の役割と行動」を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7回	学習内容 予習 復習	江戸時代の長寿を祝う儀礼 「諸国風俗問状答」にみる年祝いを読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8回	学習内容 予習 復習	幕藩領主の年祝い 「歴代将軍の算賀」「大名の年祝い」を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9回	学習内容 予習 復習	養老と政治 「養老の儀式」「藩校の養老式」を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10回	学習内容 予習 復習	江戸時代の福祉政策 「老養扶持の支給」を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11回	学習内容 予習 復習	江戸時代の看病・介護 「養老」の教えと孝規範」「武家における介護教育」を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12回	学習内容 予習 復習	江戸時代の介護休暇制度 「看病断」の制度」「看病断」による看取りを読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13回	学習内容 予習 復習	江戸時代の介護の実態 「高齢者褒賞と善行褒賞」「庶民家族の看取りの重圧」を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14回	学習内容 予習 復習	社会と看取り 「看取りの外部化」「孤老の看取りと地域」を読み、授業で学ぶことを事前に整理すること 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15回	学習内容 予習 復習	まとめ-江戸時代の高齢者 これまでの授業で学んだことをもう一度確認すること 江戸時代の経験を現代に活かすことができるか、履修者各自が考えること

科目名	生活経済学			科目コード	6510		
英文名	Life Economics			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	赤羽根 和恵		教員コード	152		単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		<input checked="" type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	授業の目的は、政府、企業、消費者の役割について理解を深め、経済主体としての家計の担う役割を理解をする。家計に関する各調査データを見て実態を把握する。消費者問題について様々な側面から考える力を養う事である。近年、積極的な取り組みが見られるエンカル消費も取り上げる。						
授業の狙い・到達目標	家計・生活について経済的な視点から学び、社会・経済と関連付けて考えることができる。消費者として困った場合に、解決する方法を理解する。						
授業内容のレベル・関連科目	生活に直結する金融・経済について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。						
授業外学習(予習・復習)	事前学習:金融・経済に関するニュースに関心を持ち、専門用語(キーワード)を調べる。 事後学習:授業で学んだことを、生活と関係づけて考える。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	毎回、資料を配布する。						
参考書・その他教材	くらしの豆知識[最新版]国民生活センター 総務省統計局「家計調査」、「全国消費実態調査」など 泉美智子・坂本綾子『お金の超基本』朝日新聞出版社						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	授業参加度(30%)、中間レポートを(30%)、期末レポートを(40%)として評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。遅刻・欠席をせずに参加をすること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to:akabane@aikoku-u.ac.jp) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

## 授業スケジュール

生活経済学

1回	学習内容 予習 復習	「生活経済学」へのアプローチ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2回	学習内容 予習 復習	経済主体としての家計・生活 経済主体について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	家計の運営 1週間の収入と支出を書いて持参する。 授業内容について振り返り、理解を深める
4回	学習内容 予習 復習	給与明細の見かた 1週間の収入と支出を書いて持参する。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	家計・生活の変容(高度成長期) 1週間の収入と支出を書いて持参する。 授業内容について振り返り、理解を深める
6回	学習内容 予習 復習	総務省統計局「家計調査」、「全国消費実態調査」などから見る家計 1週間の収入と支出を書いて持参する。 授業内容について振り返り、理解を深める。
7回	学習内容 予習 復習	家計・生活の実態 4週間分の記録を集計して持参する。 1か月分の家計の収支の記録について考えをまとめてレポートを提出する。
8回	学習内容 予習 復習	ローンの計算方法、グループワーク ローンのしくみについて調べておく。 宿題のローン計算問題を行って次回提出すること。
9回	学習内容 予習 復習	契約 契約について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	クレジット 支払方法について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
11回	学習内容 予習 復習	クーリングオフ クーリングオフについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	消費者トラブル①若者・女性 若者と女性に多い消費者トラブルについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	消費者トラブル②高齢者 高齢者に多い消費者トラブルについて調べておく。 消費者トラブルについて学んだことをレポートにまとめ提出する。
14回	学習内容 予習 復習	エンカル消費 エンカル消費について調べておく。 エンカル消費について学んだことをレポートにまとめ提出する。
15回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り これまでのレジュメを見直しておく。 全15回の授業を振り返り、関心のあるテーマについてレポートにまとめ提出する。

<b>科目名</b>	介護福祉論			<b>科目コード</b>	6520		
<b>英文名</b>	Care & Welfare			<b>科目区分</b>	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
<b>担当教員</b>	赤羽根 和恵		<b>教員コード</b>	152		<b>単位数</b>	2単位
<b>開講期間</b>	後期	<b>曜日・時限</b>	水曜日・5時限		<b>授業形態</b>	講義	
<b>学位授与方針との対応</b>	<input type="radio"/> 1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/> 2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する					
	<input type="radio"/> 3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する				
	<input checked="" type="radio"/> 5.学習の過程で発見した課題を探究する	<input type="radio"/> 6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う					
<b>授業概要</b>	高齢者や障がいのある人の暮らしに理解を深め、その人らしい生活と人生が送れるように社会資源を活用しながら自立支援を行うことが大切である。介護対象者の健康の維持と生活の質(QOL)が高まるような援助とは何かについて学ぶ。自分自身と照らし合わせて考えられる視点を育む。						
<b>授業の狙い・到達目標</b>	介護を必要とする人が、なぜ支援が必要か多様な視点で考える。ノーマライゼーションの意味を理解し、対象者の生活の質(QOL)を高める援助方法を理解できる。社会福祉の支援に必要な社会資源について説明できる。						
<b>授業内容のレベル・関連科目</b>	日常生活を通じて、福祉について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。社会保障論を併せて学習することが望ましい。						
<b>授業外学習(予習・復習)</b>	事前学習:住んでいる自治体のホームページ、市報などを読み、介護福祉関連の情報を得る。ニュースに関心を持ち、専門用語(キーワード)を調べる。 事後学習:授業で学んだことを復習して、次の授業に備える。			<b>授業外学習に必要な時間</b>	各回4時間、 合計60時間		
<b>使用教科書</b>	毎回、資料を配布する。						
<b>参考書・その他教材</b>	NHKテキスト『社会福祉セミナー』NHK出版 他						
<b>課題に対するフィードバック</b>	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。						
<b>成績評価方法</b>	授業参加度(30%)、養成講座受講・発表・レポート(30%)、期末レポート(40%)として評価する。						
<b>成績評価基準</b>	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
<b>履修上の注意事項や学習上の助言</b>	社会福祉協議会より講師を招へいして「認知症サポーター養成講座」の実施を予定している。実施回が前後する可能性がある場合は、事前に授業内で連絡をする。前後に関連する授業を行うため遅刻・欠席のないようにすること。						
<b>科目に関連した教員の実務経験</b>	特になし。						
<b>担当教員への連絡方法</b>	質問はメールでも受け付ける(mail to: akabane@aikoku-u.ac.jp) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

## 授業スケジュール

介護福祉論

<b>1回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	「介護福祉論」へのアプローチ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
<b>2回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	生活と生活者の理解の視点 「社会福祉論」で学んだことを見返しておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>3回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	人間の多様性・複雑性、利用者の生活、ノーマライゼーション ノーマライゼーションについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>4回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	障がい者の生活理解、ケアワーク 障がいを持つ人が抱える問題について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>5回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	障がい者自立支援制度におけるサービスの概要、事例 住んでいる自治体のホームページを見て、障がい者の自立支援について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>6回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	高齢者の生活理解、高齢者の健康とその維持、疾患(生活習慣病、認知症など) 高齢者の暮らしについてどのような問題があるか調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>7回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	地域福祉への理解 住んでいる自治体のホームページを見て、福祉への取組みについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>8回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	四街道市社会福祉協議会「認知症サポーター養成講座」を予定 住んでいる地域の社会福祉協議会のホームページを見ておく。 授業内容について振り返り、まとめておく。
<b>9回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	「認知症サポーター養成講座」受講の振り返り・発表 前週に実施した養成講座で得た気付きを発表できるようにしておく。 授業内容について振り返り、レポートにまとめて提出をする。
<b>10回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	ICFと介護保険制度、介護サービス 介護保険について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>11回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	居宅サービスの特性 居宅サービスの特性について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>12回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	在宅療養の事例 在宅療養の良い点と改善点が何かを考えておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>13回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	人生会議 人生の最期の迎え方について考えておく。 ワークシートを完成させて、自分の考えをまとめてレポートと共に提出をすること。
<b>14回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	多様なニーズに応える職種とその連携、地域との結びつき 社会福祉関連の職種について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>15回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	授業の振り返り 介護の必要な人への配慮、今後の関りについて考えてくること。 全15回の授業を振り返り、介護福祉についての諸課題をとりまとめてレポートを提出すること。



科目名	女性労働論			科目コード	6530		
英文名	Women and Work			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	赤羽根 和恵		教員コード	152	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・5時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	「男女雇用機会均等法」の施行以降、女性労働者を取り巻く環境の変化と未だ顕在する問題について理解をする。女性は出産で退職後、子育てが一段落した後に労働市場へ再参入し、非正規雇用が多くみられる。多様な働き方をする女性の問題と今後の課題を検討する。						
授業の狙い・到達目標	女性を取り巻く環境と問題、統計データと法制度の理解をする。将来を含め生活上の課題解決に活用することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	日常生活を通じて、女性労働について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。経営関連科目を併せて学習することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	事前学習:女性に関する施策、雇用に関するニュースに関心を持ち、専門用語(キーワード)を調べる。 事後学習:授業で学んだことを復習して、次の授業に備える。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	毎回、資料を配布する。						
参考書・その他教材	東京都産業労働局編『働く女性と労働法【最新版】』 加藤容子・小倉祥子・三宅美樹著『わたしのキャリア・デザイナー―社会・組織・個人―』ナカニシヤ出版						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	授業参加度(30%)、中間レポート(30%)、期末レポート(40%)として評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	統計データを用いた資料を読み文章にまとめる。 グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。遅刻・欠席をせずに参加をすること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to:akabane@aikoku-u.ac.jp) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

## 授業スケジュール

女性労働論

1回	学習内容 予習 復習	「女性労働論」へのアプローチ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2回	学習内容 予習 復習	性別役割分業から男女共同参画へ 性別役割分業とは何か調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	雇用統計(労働力人口、労働力率、就業形態、従業上の地位) 労働人口と労働力率についてわかるようにしておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	雇用統計(産業、職種、管理職、賃金、女性の職業生涯) 女性の管理職率を調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	労働基準法、労働契約法、労働組合法、男女雇用機会均等法 仕事に関する法律について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	男女共同参画基本法、女性活躍推進法 男女共同参画の意義を調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
7回	学習内容 予習 復習	育児・介護休業法、パートタイム労働法、労働者派遣法 働く女性に関係のある法律を調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	「女性の活躍について」グループディスカッション・発表 これまでの授業を振り返り、女性が活躍するために必要な事を考えてくる。 女性の活躍に必要なことをまとめレポートを提出する。
9回	学習内容 予習 復習	雇用保険制度、年金保険制度 社会保険について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	ライフイベントと社会保障のシミュレーション 自分の将来について考え、どのようなライフイベントがあるか書き出してくる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
11回	学習内容 予習 復習	ワーク・ライフ・バランスの事例、国際比較 ワーク・ライフ・バランスについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	ダイバーシティの事例、国際比較 ダイバーシティとは何か調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	多様な産業・職種を考える 将来就きたい職業について具体的に考えてくる。 将来就きたい職業について発表できるようにまとめる。
14回	学習内容 予習 復習	将来の職業への抱負(発表) 発表の準備とスピーチの練習をしておく。 授業内容について振り返り、再度スピーチの原稿を加筆・修正をして提出をする。
15回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り 授業を振り返り、質問を考えてくる。 全15回の授業を振り返り、女性の雇用問題についての諸課題をとりまとめる。

<b>科目名</b>	児童福祉論			<b>科目コード</b>	6540	
<b>英文名</b>	Child Welfare			<b>科目区分</b>	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)	
<b>担当教員</b>	赤羽根 和恵		<b>教員コード</b>	152	<b>単位数</b>	2単位
<b>開講期間</b>	前期	<b>曜日・時限</b>	月曜日・4時限	<b>授業形態</b>	講義	
<b>学位授与方針との対応</b>	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する	<input checked="" type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
<b>授業概要</b>	少子・高齢社会では、子どもの権利保障と子育て家庭への社会的支援が必要とされている。授業では、「子どもの権利保障」の観点から児童福祉を理解する。社会のさまざまな制度、地域との連携も含め多角的に考えていく。					
<b>授業の狙い・到達目標</b>	子どもと子育て家庭の生活の実態とこれを取り巻く社会情勢を理解する。福祉の需要として、ひとり親家庭、児童虐待、家庭内暴力、地域の子育て支援、青少年の育成などの問題について考える。子どもの権利に焦点をあて、その成長と発達を社会的に支援していけるかを考える。法律と制度体系、支援サービスの概況を理解する。児童福祉の今日的問題について意見を述べるができる。					
<b>授業内容のレベル・関連科目</b>	日常生活を通じて、子どもと子育て家庭の福祉について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。					
<b>授業外学習(予習・復習)</b>	事前学習:住んでいる自治体のホームページ、市報などを読み、児童福祉関連の情報を得る。ニュースに関心を持ち、専門用語(キーワード)を調べる。 事後学習:授業で学んだことを復習して、次回の授業に備える。			<b>授業外学習に必要な時間</b>	各回4時間、 合計60時間	
<b>使用教科書</b>	毎回、資料を配布する。					
<b>参考書・その他教材</b>	林浩康『子どもと福祉 子ども・家族支援論(第3版)』福村出版					
<b>課題に対するフィードバック</b>	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。					
<b>成績評価方法</b>	授業参加度(30%)、中間レポート(30%)、期末レポート(40%)として評価する。					
<b>成績評価基準</b>	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
<b>履修上の注意事項や学習上の助言</b>	グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。遅刻・欠席をせずに参加をすること。					
<b>科目に関連した教員の業務経験</b>	特になし。					
<b>担当教員への連絡方法</b>	質問はメールでも受け付ける(mail to:akabane@aikoku-u.ac.jp) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

## 授業スケジュール

児童福祉論

<b>1回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	「児童福祉論」へのアプローチ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
<b>2回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	児童福祉の法制概要 体系(「社会福祉論」の確認を含む) 「社会福祉論」で学んだ児童福祉について見直しておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>3回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	児童福祉に関する法律と制度 子どもに関するニュースを調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>4回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	現代社会における子ども・子育て家庭の現状と児童福祉の意義 子育て家庭が抱える問題を調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>5回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	児童福祉の理念と子どもの権利保障 子どもの権利保障について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>6回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	児童福祉の歴史的展開 児童福祉とは何か調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>7回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	母子保健施策と福祉サービス・就学前児童の保育 住んでいる自治体のホームページを見て、子どもへの福祉の取組みについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>8回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	児童健全育成政策と地域子育て支援 住んでいる自治体のホームページを見て、子どもへの福祉の取組みについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>9回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	家族の多様化・階層化 家族の携帯の変化について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>10回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	子どもの虐待と子ども家庭福祉 子どもの虐待について最近のニュースを調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>11回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	子どもの貧困・少子社会の抱える問題、グループワーク・発表 子どもの貧困問題について最近のニュースを調べておく。 授業内容について振り返り、レポートにまとめて提出をする。
<b>12回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	社会的養護の実態 社会的養護の意義について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>13回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	地域における取組み、子ども家庭福祉サービス、グループディスカッション・発表 住んでいる自治体のホームページを見て、子どもへの福祉の取組みについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
<b>14回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	児童福祉の課題と展望 授業で考えた問題をもとに、児童福祉の課題を調べておく。 授業内容について振り返り、今後の課題についてレポートにまとめて提出をする。
<b>15回</b>	<b>学習内容</b> <b>予習</b> <b>復習</b>	授業の振り返り 子どもと子育て家庭にとって必要な福祉について発言できるように考えをまとめておく。 全15回の授業を振り返り、児童福祉についての諸課題をとりまとめる。

科目名	家族社会学			科目コード	6550		
英文名	Family Sociology			科目区分	【生活文化福祉コース】 専攻科目(選択科目)		
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147		単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	家族をめぐる現代的な諸問題について、テキストや新聞記事などを参照しながら考えていく。テーマごとに、履修者に身近な例をあげてもらいディスカッションをする機会も設ける。						
授業の狙い・到達目標	生活や社会の基盤である家族について、社会学的見地から理解を深める。特に、子供をめぐる社会問題や、働き方、ジェンダーに関する現代的な問題をとりあげながら、家族をとりまく社会変容について考え、出身国・出身地域との比較をしながら意見を持てるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	普段から新聞やニュース番組に関心を持ち、家族をめぐる社会問題について状況を把握しておくこと。また、論文や新聞記事を一通り読め、理解できることが望ましい。(関連科目)女性労働論、児童福祉論						
授業外学習(予習・復習)	各回の授業で、簡単な課題の提出を求める。小テストを行なう場合もある。また、資料について、指示された箇所を次の授業までに読んでくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	指定しない。						
参考書・その他教材	岩間暁子ほか編 2015『問いからはじめる家族社会学—多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣。 その他、授業ごとに資料を配布するとともに、テーマに合わせて随時参考文献を指示する。						
課題に対するフィードバック	各回に出した課題に対しては、翌週の授業でコメントをする。小テストについては、実施日に授業内容を振り返りながらコメントをする。						
成績評価方法	小テスト(30%)、期末試験(70%)で評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	普段からニュースや新聞を見たり読んだりして、社会問題に関心を抱き、自分なりの意見をもっておくこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること。						

## 授業スケジュール

家族社会学

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	現代社会における家族のありかたの変容について概観する。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	夫婦別姓について、その歴史、問題点、現在の動向について学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	子供をめぐる社会問題①少子化について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	子供をめぐる社会問題②育児の担い手について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	子供をめぐる社会問題③母系社会モノ族の家族のありかた 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業で観た映像を振り返り、家族のありかたや育児について意見をまとめ、提出する。
7回	学習内容 予習 復習	子供をめぐる社会問題④児童虐待とその社会的背景について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 第2回から第7回までの資料を読み返しておくこと。 授業で指示された課題の内容にとりくみ提出すること。
9回	学習内容 予習 復習	働き方をおとして家族のありかたを考える—ワーク・ライフ・バランスという問題。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	家族とジェンダー①性別による「らしさ」を問い直す。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
11回	学習内容 予習 復習	家族とジェンダー②政界、映画界における男女格差について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	家族とジェンダー③非正規雇用の現状と問題点について考える 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	家族とジェンダー④パートナーシップの多様化について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 第9回から第13回までの資料を読み返しておくこと。 授業で指示された課題の内容にとりくみ提出すること。
15回	学習内容 予習 復習	授業全体のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科目名	社会学概論			科目コード	6560	
英文名	Outline of Sociology			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	晨 晃	教員コード	209	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・2時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	我々は社会という客観的な環境の中で生きている。この社会を研究する学問である社会学につき、その基本概念、諸理論、研究分野、また学問の歴史を学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	社会とは何か、人々の社会行為とは何か。これらについては大学生になって初めて学ぶ人がほとんどではないだろうか。そこで、本講義では、社会学の基礎知識を身に付け、特に人間の相互行為との関係を理解していくことを狙いとして進めたい。					
授業内容のレベル・関連科目	社会学は人と社会の関係に関する学問である。学習を通して社会生活により適応できるような人間になることが重要である。関連科目は特になし。社会学関連では唯一の科目なので、興味のある学生の積極的な受講を希望する。					
授業外学習(予習・復習)	授業の前に教科書を読み、授業後、授業の内容について質問や感想文をまとめて提出する。次回の授業で解答や意見交換を行う。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	富永健一『社会学講義一人と社会の学』中央公論社					
参考書・その他教材	毎日のニュースに注目すること					
課題に対するフィードバック	教科書の一章ごとに課題を考えさせ、レポートとして提出されたものに解答・解説をする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	期末レポート(40%)、課題(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし。					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to: hayashi@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学生番号・氏名を必ず記載すること					

## 授業スケジュール

社会学概論

1回	学習内容 予習 復習	オリエンテーション——授業の目的と内容、授業の進め方などについて説明する。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること
2回	学習内容 予習 復習	第一章社会の学としての社会学 第一節社会学とは何かについて学ぶ。 社会という概念について調べ、理解すること(教科書の第一章第一節を読む) 社会学の定義について振り返り、これをレポートとして提出すること
3回	学習内容 予習 復習	第一章第二節社会学の研究対象について学ぶ。 ミクロ社会、マクロ社会の関係を調べ、理解すること(第一章第二節を読む) 社会と文化、社会と環境の関係について振り返り、レポートを提出すること
4回	学習内容 予習 復習	第一章第三節社会学の研究諸部門について学ぶ。 研究対象と研究方法について調べ、理解すること(第一章第三節を読む) 社会学の研究所部門について振り返り、レポートを提出すること
5回	学習内容 予習 復習	第二章理論社会学 第一節ミクロ社会について学ぶ。 人間の行為について調べ、理解すること(教科書の第二章第一節を読む) 社会学におけるミクロレベルの研究について振り返り、レポートを提出すること
6回	学習内容 予習 復習	第二章第二節マクロ社会学(1)社会システム構造論について学ぶ。 社会システムの諸類型について調べ、理解すること(第二章第二節を読む) 社会構造論の研究について振り返り、レポートを提出すること
7回	学習内容 予習 復習	第二章第三節マクロ社会学(2)社会システム変動論について学ぶ。 社会構造と社会変動の関係について調べ、理解すること(第二章第三節を読む) 社会変動の内容——近代化について振り返り、レポートを提出すること
8回	学習内容 予習 復習	第三章領域社会学と経験社会学 第一節領域社会学について学ぶ。 内包的、外延的領域社会学について調べ、理解すること(第三章第一節を読む) 自分の領域社会学を選べ、レポートを提出すること
9回	学習内容 予習 復習	第三章第二節経験社会学(1)社会調査について学ぶ。 社会学の経験的特性について調べ、理解すること(第三章第二節を読む) 自分の社会調査テーマを選べ、レポートを提出すること
10回	学習内容 予習 復習	第三章第三節経験社会学(2)計量社会学について学ぶ。 調査データの意味、変数などについて調べ、理解すること(第三章第三節を読む) 計量社会学の意義について振り返り、レポートを提出すること
11回	学習内容 予習 復習	第四章社会学史の主要な流れ 第一節前史と社会学第一世代について学ぶ。 西洋と日本の社会学者の第一世代について調べ、理解すること(教科書の第四章第一節を読む) 社会学の発生について振り返り、レポートを提出すること
12回	学習内容 予習 復習	第四章第二節社会学第二世代について学ぶ。 第二世代の社会学者たちについて調べ、理解すること(第四章第二節を読む) 社会学第二世代の理論について振り返り、レポートを提出すること
13回	学習内容 予習 復習	第四章第三節現代社会学の諸潮流について学ぶ。 現代社会学の諸理論について調べ、理解すること(第四章第三節を読む) 現代社会学の諸理論について振り返り、レポートを提出すること
14回	学習内容 予習 復習	まとめ1——ミクロ社会学の理論とマクロ社会学の理論について復習する。 現実問題と理論の関係について調べ、理解すること ニュースに関して、社会学の説明をレポートとして提出すること
15回	学習内容 予習 復習	まとめ2——社会学史の流れについて復習する。 時代と社会学の関係について調べ、理解すること 全15回の授業を振り返り、社会学の研究についての諸課題をとりまとめること

科目名	ポップカルチャー論 I			科目コード	6570		
英文名	Japanese Pop-culture I			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	堀内 佐知美		教員コード	252		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	漫画論である。日本の漫画製作を学び、その影響力等への理解を深めることを目的とする。						
授業の狙い・到達目標	今や「MANAGA」は日本を代表するポップカルチャーである。何故日本の漫画が世界にこれほど浸透したか、面白い漫画は何故面白いかをその手法と共に理解させる。						
授業内容のレベル・関連科目	ポップカルチャー論IIと合わせて受講することを推奨する。						
授業外学習(予習・復習)	自分の好きな漫画や漫画ジャンルを選び、何故それが好きか自分の言葉で語れるようにしておくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	さちみりほ『ローゼリア王国物語』、さちみりほ『夢やしきへようこそ』						
参考書・その他教材	さちみりほ『銀のヴェルクユリアス』ドラマCD等						
課題に対するフィードバック	レポートや評論等はその都度、添削する						
成績評価方法	授業への取り組み(50%)、課題・レポート(50%)						
成績評価基準	到達目標の達成度を、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	たくさんの漫画をただ読むのだけではなく、人物やセリフの重要度を探りながら読むようにする。好きな漫画を熱く語れることも、つまらない漫画を批判できる能力も大切。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	メールでも受け取ります。(メールアドレスは初回の講義で提示する) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

## 授業スケジュール

ポップカルチャー論 I

1回	学習内容	漫画とは何か 世界における日本の漫画の影響など
	予習	授業概要を理解しておくこと
	復習	好きな漫画を一冊読んでおくこと
2回	学習内容	各自に好きな漫画の面白さを語らってもらい、何故面白いかを講義する
	予習	好きな漫画を一冊読んでおくこと
	復習	描き手の立場になって読んでみる
3回	学習内容	漫画の構成力、キャラクター表現、映画的手法について
	予習	課題の漫画を読んでおく
	復習	構成、効果の視点から読み返す
4回	学習内容	背景の効果的な入れ方、演出について
	予習	背景に注意して読んでみる 背景の上手い漫画を探す
	復習	作者の狙いを考えながら読む
5回	学習内容	効果、ライティング、逆光、カゲ、ベタ等の説明
	予習	上記に注意して読んでみる
	復習	ライティングを変えた場合の効果等を考える
6回	学習内容	アップ→ロング→人物のない、コマ等の動き、演出
	予習	上記に注意して読んでみる
	復習	他の漫画の構成に注目する
7回	学習内容	これまでの講義で説明してきたことを振り返る
	予習	マンガの効果を説明できるようにする
	復習	楽しみながら作り手の工夫を理解しつつ読む
8回	学習内容	マンガの面白さについて、編集になったつもりで解説する。
	予習	何が面白いのか説明できるようにする
	復習	面白い意味と理由を理解しながら読む
9回	学習内容	キャラクター作り、キャラクターとは何か、主役と脇役のバランス
	予習	主役の動きに注目して読む
	復習	主役の魅力の理由を理解する
10回	学習内容	脇役の必要性、役割とバランスなど
	予習	魅力的な脇役が登場する漫画を読む
	復習	脇役の魅力の理由を理解する
11回	学習内容	ストーリーのバランス、起承転結のページ配分について
	予習	起承転結の意味を理解しておく
	復習	読切マンガの何が起でどこが転に当たるか理解する
12回	学習内容	ストーリーの成り立ち、セリフとモノロークの意味
	予習	小説、映画とマンガの違い、共通点を考えておく
	復習	マンガ独特の効果を知る
13回	学習内容	イントロ、見開き、ヤマ場、ラストなどの役割について
	予習	それぞれ、どこに当たるか考えておく
	復習	各場面の役割を念頭に置いて読み返す
14回	学習内容	これまでの総括、各自の漫画論を語る、レポート提出
	予習	好きな一冊を選び、理由を語れるように読んでおく
	復習	他の人の勧めた本も読んでみる
15回	学習内容	講義への各自の感想、レポートを発表し合い、感想を伝えあう
	予習	各自のレポートや講義について、感想を述べられるようにする
	復習	様々な視点から漫画を理解し、実生活に生かしてゆく

科目名	ポップカルチャー論Ⅱ			科目コード	6580		
英文名	Japanese Pop-culture Ⅱ			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	堀内 佐知美		教員コード	252		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する		<input checked="" type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	漫画への理解を深め、批評力、分析力を高める。実技を伴うこともある。						
授業の狙い・到達目標	原稿を描くこと(漫画家体験)、評論すること(編集者体験)で理解力、分析力を高め、実社会に活かせる技術を磨く。						
授業内容のレベル・関連科目	ポップカルチャー論Ⅰと合わせて受講することを推奨する。						
授業外学習(予習・復習)	自分で考えた漫画のストーリー(ネーム)を作成してくる。創作が苦手であれば童話・小説等も許容するが、その際は原作名を申告すること。パロディは不許可。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	著作権の関係上、自著「夢やしきへようこそ」「ローゼリア王国物語」等を中心に進めることとなる。						
参考書・その他教材	作家の許可を得られた場合、他作家、他作品のコピー等を使用する場合もある。						
課題に対するフィードバック	プロット(あらすじ)の提出、ネーム等はその都度確認し添削する。						
成績評価方法	授業への取り組み(50%)、課題・レポート(50%)						
成績評価基準	到達目標の達成度を、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業上の課題に積極的に取り組むこと。上手下手より、丁寧さやセンス、人真似でない獨創性を重視する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	メールでも受け取ります。(メールアドレスは初回の講義で提示する) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

## 授業スケジュール

ポップカルチャー論Ⅱ

1回	学習内容	漫画論 現代社会における漫画の貢献度について
	予習	自分の好きな漫画を語れるようになっておく
	復習	教材として「夢やしきへようこそ」を渡すので、読んでおくこと
2回	学習内容	前回読んだマンガの感想を中心に
	予習	ノート、鉛筆、絵を描きやすい道具も用意
	復習	自分でストーリーを考えてくる
3回	学習内容	実践としてマンガを描いてみる。4コマギャグ可。苦手な者は評論も可。
	予習	ストーリーの先を考えておく。途中まででも可。
	復習	遅れた部分を描いておく。
4回	学習内容	ストーリーが苦手な者は童話等の作品化も可。プロット(あらすじ)提出。
	予習	マンガにしたいストーリーを決定させる。16～24ページ。主題を明確に。
	復習	構成、ページ割を考えておく。
5回	学習内容	ノートにネームを描き、ストーリー修正、入れる者は下描きへ。
	予習	ネームを形づくっておく。コマ割の効果を考える。
	復習	ストーリーを進めておく。
6回	学習内容	下描きに入る①(原稿用紙) 何故この物語を描きたいか説明できるように。
	予習	修正したい箇所を直す。
	復習	背景に必要な資料を揃えておく。
7回	学習内容	下描きに入る② 演出を理解する。
	予習	デッサン 演出を考えておく。
	復習	遅れた分の下描きがあれば進める。
8回	学習内容	下描きに入る③ 効果的な構成の説明。
	予習	ペン入れに入りたい者は申し出てペンを入れる。
	復習	下描きを完成させる。
9回	学習内容	ペン入れ④ 人物から順に入れる。不要なシーンの選別。
	予習	ペンタッチを練習しておく。
	復習	質感の意味を理解する。
10回	学習内容	ペン入れ⑤ 主要人物とそれ以外の違い
	予習	背景、効果のアタリ
	復習	背景、効果の下描き
11回	学習内容	ペン入れ⑥ 背景等の下描き。既存のマンガの工夫を理解する。
	予習	資料を揃えておく。
	復習	修正したい箇所を直しておく。
12回	学習内容	仕上げ。トーンでもデジタルでも可。
	予習	早い者は遅れている者の原稿を手伝う。
	復習	完成した原稿等の修正等。最終仕上げをする。
13回	学習内容	全員の作品提出。①漫画作品(長編P16～24)②短編(P4～8)と漫画評論どちらか。
	予習	作品の完成度を高める。
	復習	作品の主題、反省点を述べられるように。
14回	学習内容	可能ならば同人誌作成。全員の作品を回覧する。
	予習	他者の感想を聞き、直したい点があれば直しておく。
	復習	皆の作品を読んでおく。
15回	学習内容	自分達の作品の感想、実践してみてわかったことを話し合う。
	予習	体験の感想を考えておく。
	復習	漫画を描く苦勞。面白みを考える。